

平成 21 事業年度

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

業務実績報告書

独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

目 次

平成21年度に係る業務の実績	
1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置	… 1頁
(1) 共通事項	… 1頁
① 経費の削減	… 1頁
② 給与水準の適正化等	… 1頁
③ 業務の更なる民間開放	… 2頁
④ 組織体制の見直し等	… 3頁
⑤ 業務遂行体制の整備	… 3頁
(2) 公園に関する事項	… 3頁
① 中期目標期間中の公園整備	… 3頁
② 随意契約の適正化	… 3頁
③ 公園敷地の有効活用等	… 6頁
(3) 基金に関する事項	… 6頁
2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に 関する目標を達成するための措置	… 7頁
(1) 公園に関する事項	… 7頁
① 利用者に対するサービスの向上	… 7頁
② 環境保全への積極的な貢献	…20頁
③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献	…25頁
(2) 基金に関する事項	…34頁
① 効果的な助成金の交付	…34頁
② 助成対象事業についての事後評価の実施	…41頁
③ 助成金の交付に係る選考手続き等における客観性及び 透明性の確保	…43頁
④ 民間知見の活用	…50頁
(3) 公園事業への繰入れの拡大	…51頁
(4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保	…52頁

3. 予算、収支計画及び資金計画	…53頁
(1) 公園に関する事項	…53頁
(2) 基金に関する事項	…54頁
4. 短期借入金の限度額	…54頁
5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画	…54頁
6. 剰余金の使途	…54頁
7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項	…55頁
(1) 人事に関する計画	…55頁
(2) 施設及び設備に関する計画	…56頁
(3) 公園内の安全管理	…57頁
別紙1. 日本万国博覧会記念基金事業審査会委員名簿	…61頁
別紙2. 予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績	…62頁
別紙3. 予算、収支計画及び資金計画に関する実績の経年比較表	…67頁
別紙4. 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表	…68頁
別紙5. 公園整備等に関する計画の執行実績	…69頁

平成 21 年度に係る業務の実績

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置

(1) 共通事項

① 経費の削減

○ 平成 21 年度の一般管理費(総人件費を除く。以下同じ。)は、1,975 百万円となった。これは年度計画(2,072 百万円以内)を、△97 百万円(△4.7%)上回る削減となっている。

また、第 2 期中期計画に定めた削減目標の基準となる平成 18 年度に対する経費の削減率についてみると、△4.7%(98 百万円)の削減となり、同中期計画の最終目標である平成 22 年度の削減率(4%以上)に対して十分な進捗状況となっている。

一般管理費の削減状況 (単位：百万円、%)

事業年度	平成 18 年度	平成 19 年度 (参考)	平成 20 年度	平成 21 年度
一般管理費 (実績)	2,073	2,109	2,009	1,975
削減率 (実績)	—	1.7	△3.1	△4.7
一般管理費 (年度計画)	—	—	2,036	2,072
削減率 (年度計画)	—	—	△1.8	△0.1

(注) 削減率は平成 18 年度(実績)に対する割合

- 平成 21 年度における経費削減に向けての主な取組みは、以下のとおりである。
 - イ 前年度に引き続き、工事等の契約における競争的な契約の徹底による工事費等の削減(約 243 百万円)に努めたほか、前年度までに行った外灯の整備により管理費等の削減(約 1,694 千円)を図った。
 - ※ 工事費等の削減額は、競争入札の実施による、設計金額と落札額(契約額)との差額である。
 - ロ また、民間のノウハウを活用してコストの削減を図るため、前年度に引き続き NPO 法人等から、企画提案書の提出を受け、業務内容の質的低下とならず、また、利用者の立場等の観点からの公園管理が図られるよう十分留意したうえで、花壇管理業務や花園創出管理業務などの公園業務の一部(10 業務)を委託した(コスト削減効果は、約 30 百万円)。
 - ハ 環境問題等への対応を図りながら、将来的な経費の節減にも寄与するものとして、毎年度計画的に行っている受変電設備の改修を引き続き平成 21 年度も行った(平成 22 年 3 月竣工)。
- なお、物品等の調達にあたっては、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」(平成 19 年 2 月)に示された基準に適合した物品の調達に努めた結果、平成 21 年度の環境物品等の調達割合は 97.8%となった。

② 給与水準の適正化等

- 人件費の削減については、行革推進法の規定に基づき、22年度の人件費を17年度と比較して5%以上削減することとしている。
 - この目標を達成するため、平成20年度以降再任用職員の労働条件を改正し非常勤化したことに加え、引き続き超過勤務の抑制や出向者の異動時における出向元への要請等を行った結果、21年度の人件費は、人事院勧告に準じた給与の引下げ改定分を含めると、対17年度比で9.7%(46,571千円)の削減となった。

総人件費の推移

(単位：千円)

	17年度 (基準)	18年度	19年度	20年度	21年度
人件費(注1)	482,041	477,177	457,509	445,134	435,470
削減率		△1.0%	△5.1%	△7.7%	△9.7%
削減率 (補正後)(注2)		△1.0%	△5.8%	△8.4%	△8.0%

注1)「人件費」とは、基本給、諸手当、期末・勤勉手当の総支給額の合計をいう。

注2)「削減率(補正後)」とは、人事院勧告による国家公務員の給与改定分を除いた正味の削減率をいう。

- 21年度の当機構職員と国家公務員及び他の独立行政法人職員との給与水準の比較指標(ラスパイレス指数)は、対国家公務員で111.2(20年度115.1)、対他法人で104.8(20年度107.3)となり、前年度と比較してそれぞれ3.9ポイント、2.5ポイントの減少となった(平成22年6月30日に詳細をホームページにて公表)。
- 給与水準の適正化については、これまでも労使協議を経て本給の引下げ等を行ってきたが、21年度においては下記の取組を実施したところであり、今後も引き続き給与水準の検証及び適正化に努めることとしている。
 - ・国家公務員に準じた給与の引下げ(月例給：平均△0.2%、賞与：△0.35月分)
 - ・勤務評価における「成績区分別人員分布率基準」の見直し(「B 評価」の分布率を全体の「20%以内」から「10%以内」に改正)
 - ・勤勉手当の上積み支給対象者について「特に勤務成績が優秀な者」に限ることとし、一層厳正な評価を実施

③ 業務の更なる民間開放

- イ お祭り広場の施設占有利用受付業務を新たに民間開放
- お祭り広場の施設占有利用受付業務については、機構が自ら実施してきた受付業務及び同地における設営・本番・撤去時の安全確認、イベント安全管理マニュアルに基づく指導等の業務を新たな民間開放の対象として、企画提案方式により受託者を決定した。
- ロ 公園南地区の運動施設における業務の効率化等
- 公園南地区の運動施設については、民間業者の提案を次のように実施し、業務の効率化、利用者サービスの向上、利用促進及び安全管理の向上を図った。
 - ・予約金制度の廃止や利用受付手続きの簡素化による利用者サービスの向上
 - ・係員三交代制の導入による午前7時から午後10時までのエリア全体の安全管理体制の拡充及び早朝・夕刻の施設の利用促進
 - 野球場・スポーツ広場・総合スポーツ広場の7時～9時・17時～19時の利用数
[平成20年度157件 平成21年度317件(対前年度比+102%)]
 - ・小運動場を野球場のサブグラウンドとして利用することによる安全確保及び利用促進
 - 従来は野球場の待ちチームが野球場周辺の園路でキャッチボール等をしていたのを安全確保の観点から禁止し、小運動場の利用に誘導したものを
[平成20年度61件 平成21年度86件(対前年度比+41%)]
 - ・各運動施設の利用予定を踏まえたうえでのグラウンド・芝・緑地管理の計画的実施によるグラウンド状態や景観の改善
 - ・定期巡回及び必要箇所への注意書き貼付によるエリア全体の安全性及び管理水準の向上
 - ・施設利用増及び不法駐車防止による南駐車場利用実績の増加

[平成 20 年度 84,314 台 平成 21 年度 101,589 台(対前年度比+21%)]

④ 組織体制の見直し等

- これまで常勤職員48名という限られた人員で当機構に対する様々な要請や課題に的確かつ迅速に対応すべく努めてきたところであるが、21年度においては、経営の更なる効率化を図ることを目的として、中間決算の試行実施や施設別収支導入の検討、エキスポランド跡地の活用等の新たな課題に対応するため、人員配置の見直しを行った(総務課1名減⇒経理課1名増)。また、40周年記念事業やCO₂削減など、複数の課にまたがる業務の遂行に当たっては、それぞれの課から代表者を選定して組織横断的なワーキンググループを設置するなどの取組も行った。
今後も業務遂行上の問題点等の把握とその改善に努め、効率的・効果的な業務運営が可能な組織体制を検討していくこととしている。
- また、当機構の管理運営に関する重要な事項を審議し、理事長に助言を行うことを目的として設置している評議員会を平成21年7月23日に開催し、外部有識者である評議員からいただいた意見等について可能なものから適宜業務に反映させるとともに、21年度からは議事概要をホームページで公表することとした。

⑤ 業務執行体制の整備

- 職員の勤務実績・能力等を適正に把握し、職員の資質・能力の向上や業務能率の向上を図るため、毎年度、全職員を対象に勤務評価を行っており、その結果を給与や人事異動に反映させている。
- 平成 21 年 4 月 1 日付けの昇任・昇給については、20 年度に実施した勤務評価の結果を反映させるとともに、評価の過程で得た情報を活用し、適材適所の人員配置に努めた。
- 21 年度の勤務評価に当たっては、職員から提出させた自己申告書を参考に平成 21 年 9 月から 10 月にかけて評価者による面談を行い、20 年度の評価結果を本人に開示するとともに、職員の資質・能力の向上が図られるよう指導・助言を行った。
また、平成 22 年 2 月にも面談を行い、業務に関する希望等をヒアリングした。これらの取組により、業務の成果や職員の適性・能力、業務への取組姿勢等を適切に評価し、その結果を平成 22 年 4 月 1 日付けの昇任・昇給・人事異動に反映させることとしている。

(2) 公園に関する事項

① 中期目標期間中の公園整備

- 公園整備については、利用者の便益の向上、施設の機能維持、環境保全などの観点から、必要性及び効率化を十分検討しつつ実施した結果、平成 21 年度の整備費として見積もった 1,038 百万円については、競争的な契約の徹底等により 947 百万円に削減できた。

② 随意契約の適正化

- 公園の整備業務については、緊急工事等を除いてすべて競争入札により契約を締結することとし、管理業務についても、入札することによって業務に支障が生ずるなどの事情がある業務以外は、競争的な契約の徹底に努めることとした。
平成 21 年度における競争的な契約の実績割合は、「整備業務」が 100.0%(平成 20 年度実績 100.0%)、「管理業務」が 98.9%(同 94.5%)で、この結果、契約全体では 99.5%(同 96.8%)となり、前年度を上回った。

競争的な契約の割合

	18年度	19年度	20年度	21年度
整備業務	98.7%	99.2%	100.0%	100.0%
管理業務	73.9%	75.7%	94.5%	98.9%
全体	87.1%	83.6%	96.8%	99.5%

(注)少額随意契約に係るものを除く。

なお、随意契約の適格性を1件ごとに審査するため、平成16年度に「随意契約適格審査会」を設置(平成16年12月1日)しており、平成21年度は2回の開催があり2件(不落随契のみ)の審査を実施した(平成20年度は5回開催し延べ5件(不落随契を含む)の事案を審査)。

また、平成19年11月から、随意契約の透明性、競争性の向上を図るため公募手続及び企画競争手続の制度を導入し、同制度に基づく「企画競争実施委員会」において、公募手続における契約相手方の特定及び企画競争手続における企画提案書の特定を行うこととしたところであり、平成21年度は、同委員会を12回開催し、16件の公募及び企画競争事案について審査を実施した(平成20年度は11回開催し18件の事案を審査)。

今後とも、契約の透明性、競争性の向上を図るため、公募手続及び企画競争手続の活用とともに、総合評価落札方式の導入を図り、経済性の向上を加味した競争入札の徹底に努めることとする。

- 国の取組を踏まえた「随意契約見直し計画」を平成19年12月に策定し、ホームページで公表したところであるが、その後の取組状況については、平成19年度及び平成20年度のフォローアップとしてそれぞれ取りまとめ、平成20年度分については平成21年7月にホームページで公表を行った。

なお、平成21年度における状況については、次のとおりとなっている。

平成21年度に締結した契約の状況

(単位：件、億円)

	平成18年度		平成21年度		比較増△減		(参考)見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争性のある契約	(69%) 61	(75%) 15	(93%) 98	(83%) 15	(61%) 37	(-) 0	(90%) 35	(89%) 8
競争入札等	(64%) 57	(74%) 15	(70%) 74	(72%) 13	(30%) 17	(△13%) △2	(72%) 28	(67%) 6
企画競争・公募	(4%) 4	(0%) 0	(23%) 24	(11%) 2	(500%) 20	(-) 2	(18%) 7	(11%) 1
競争性のない契約	(31%) 28	(25%) 5	(7%) 7	(17%) 3	(△75%) △21	(△40%) △2	(10%) 4	(11%) 1
合計	(100%) 89	(100%) 20	(100%) 105	(100%) 18	(18%) 16	(△10%) △2	(100%) 39	(100%) 9

- (注) 1. 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。
 2. 比較増△減の()書きは、平成21年度の対18年度伸率であり、その他の()書きは、各列の構成比である。
 3. 平成18年度及び平成21年度の競争入札等には、不落随契を含む。
 4. 「見直し計画」の競争入札等には、事務事業を取止めたものを含む。
 5. 「見直し計画」欄の計数は、平成19年12月に策定した「随意契約見直し計画」を、その後更に見直したものである。
 6. 少額随意契約については、記載の対象としていない。

【参考：随意契約見直し計画】

平成 18 年度の契約案件のうち、競争性が低いとされた案件 39 件を見直し、競争性のない契約とせざるを得ない 4 件を除いた 35 件を競争性のある契約に振り向けるとして策定した計画。(39 件：H18 随意契約 28 件+H18 企画競争・公募契約 4 件+H18 競争入札中の不落随契 7 件)

また、この 39 件についての平成 21 年度末時点における点検・見直しの状況は、次表のとおりである。

(単位:件、百万円)

区 分		件 数	金 額
平成 18 年度随意契約等		39	867
平成 19 年度実績分	事務事業を取止め	13	277
	競争入札に移行	5	140
	企画競争等を実施	2	4
平成 20 年度実績分	事務事業を取止め	2	7
	競争入札に移行	6	11
	企画競争等を実施	5	125
平成 21 年度実績分	事務事業を取止め	0	0
	競争入札に移行	0	0
	企画競争等を実施	1	40
平成 22 年度以降計画分	事務事業を取止め	0	0
	競争入札に移行	2	186
	企画競争等を実施	0	0
随意契約によらざるを得ないもの		3	77

※ 金額については、平成 18 年度時点の各案件の金額である。

※ 計画に対する「随意契約によらざるを得ないもの」1 件の減は、平成 20 年度においては真にやむを得ないものとして随意契約としたものの、平成 21 年度において見直し、企画競争等に移行した「樹木造形剪定業務」である。

- 「随意契約見直し計画の実施状況を含む入札及び契約の状況」については、監事による平成 21 年度の監査計画において監査重点事項とされており、平成 21 年度上半期分の契約案件について平成 21 年 10 月 26 日及び 27 日の 2 日間、監事監査(随時)を受けた。
その結果、契約の競争性は確保されており、契約・入札の手続きについても関連規程等にしがって概ね適正に行われている、との評価を受けたところである。
- 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)を踏まえ、平成 21 年 11 月 30 日に、監事及び学識経験者により構成される、随意契約及び一者応札について点検・見直しを行う独立行政法人日本万国博覧会記念機構契約監視委員会を設置した。
平成 22 年 1 月 6 日に第 1 回委員会を開催し、平成 20 年度の案件について審議を受けたところ、見直しの内容について概ね了承され、また、同年 2 月 15 日には第 2 回委員会を開催し、年度内の新規案件及び、平成 21 年度上半期の物品調達案件のうち落札率 9 割以上の案件について審議を受け、手続き等に問題がないことの確認を得たところ。
- 会計監査人監査においても、財務諸表監査の枠内で、内部統制の状況について評価を受けたところ。

③公園敷地の有効活用等

- 管理区域内の未利用地については、有効活用の観点から、土地貸付等により収益の確保に一層努めることとし、これまでに社会福祉施設の用地として4件の貸付契約(定期借地権設定契約3件(50年)、事業用定期借地権設定契約1件(19年2ヶ月))を締結してきたが、これによる平成21年度の貸付料収入は約53百万円となり、土地の有効活用を図るとともに、安定的な収益の確保に寄与している。
- また、その他未利用地に係る平成21年度中の新規の貸付として、次の2件の貸付を行い、これによる平成21年度の貸付料収入は約1百万円となった。
 - ・万国橋耐震補強工事現場事務用地
(貸付期間：H21. 8. 1～H22. 7. 30、貸付金額：775,096円<21年度分>)
 - ・下水道分流化工事現場事務用地
(貸付期間：H21. 11. 24～H22. 3. 25、貸付金額：188,576円)
- ネーミングライツについては、万博記念競技場を対象に利用者(ガンバ大阪等)の意見、他の導入事例などを踏まえつつ実施の可能性について検討してきたが、平成21年7月にガンバ大阪がサッカー専用球技場建設構想を発表したため、ガンバ大阪とのネーミングライツに関する協議は進展させることはできなかった。

(3) 基金に関する事項

- 日本万国博覧会記念基金(以下「基金」という。)の運用に当たっては、長期金利が依然として低水準で推移する厳しい運用環境の中、安全・確実性を前提に、流動性の高い国債、地方債を中心に運用を行うとともに、フルインベストメントに努めるなど、毎月の収支の状況を踏まえながら、運用益の確保に努めた。

【参 考】

当機構の運用対象は、独立行政法人通則法第47条で、国債、地方債、政府保証債と規定されている。また、財務省告示第615号(平成15年9月30日)で、取得できる有価証券を以下のとおり指定されている。

- 1 特別の法律により法人の発行する債券
- 2 金融債
- 3 社債
- 4 貸付信託の受益証券

- 平成21年度中に満期償還となった約18億円(平均利回り2.91%)を再運用し、国債、地方債、財投機関債等を20億円(平均利回り1.91%)購入した。

再運用に当たっては、債券の購入時期、種類等に配慮した結果、平成21年度に再運用したものの平均利回り(1.91%)は、新発10年物国債の平均利回り(1.37%)を0.54%上回った。

以上の結果、平成21年度の平均利回りは1.69%となった。

基金の運用状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
運用収入額	328百万円	328百万円	320百万円
運用資金平均残高	18,871百万円	18,930百万円	18,986百万円
平均利回り	1.74%	1.73%	1.69%
キャッシュ保有割合	0.61%	0.33%	0.47%

(注)運用収入額には、償却原価額、未収利息を含んでいない。

2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

(1) 公園に関する事項

① 利用者に対するサービスの向上

イ ニーズの把握とニーズへの対応

■ニーズの把握

- 広く利用者の声を的確に把握するため、①春季と秋季の来園者アンケート調査、②四季折々のイベント開催時の来園者アンケート調査、③機構ホームページ上のアンケート調査、④公園ボランティア活動者への聴き取り調査、⑤オールパスポート会員への聴き取り調査及び⑥自然文化園各ゲート、日本庭園並びに総合案内所に意見箱を設置するなど、3,849 人の来園者の声を適宜把握し、適切な対応を行った。

【アンケート調査結果】

① 春季と秋季の来園者アンケート調査結果

➤回収数 : 1,131 人

➤調査日 : 5月2日・10月24日

➤調査場所 : 自然文化園各ゲート(中央口、日本庭園前、東口、西口)

➤調査結果 : (主なもの)

- ・来園者の6割が10回以上の来園経験があり、リピーター数が増加している。
- ・園内の来園目的としては、花の観賞者が年々増加傾向にあることに加え、子どもを遊ばせることや家族・友人と遊ぶ目的が昨年より多くなってきた。
- ・希望する催し物として、「納涼祭り」「とれたて野菜の朝市」の開催期待度が高く、次いで「野外でのミニコンサート」「健康増進のレクリエーション」であった。

② 四季折々のイベント開催時のアンケート調査結果

➤回収数 : 延べ2,124 人

➤標本数 : 12種のイベント

➤調査場所 : 各イベント会場

➤調査結果 : (主なもの)

- ・「散歩・健康づくり」「写真撮影・絵画」など、健康や趣味を兼ねた来園者が増加傾向にあった。
- ・蛍の夕べに来園された方の6割が「年に1回から2回」の来園頻度であり、普段来園しない層の集客効果があった。
- ・イベント評価は、8割弱が「よい」との高い評価を得たが、60歳代以上の評価が前年度より低下していた。

③ 機構ホームページ上のアンケート調査結果

➤回収数 : 348 人

➤調査期間 : 8月26日～9月28日 (34日間)

➤調査結果 : (主なもの)

- ・来園者がホームページを利用する比率は、前年度より多い傾向にあった。
- ・「よく読む情報誌」の調査では、関西ウォーカー、サンケイリビング紙、シティライフ NEW がよく読まれていた。
- ・ホームページレイアウトの改善要望で最も多かった意見は、「見出し、メニュー整理をする」で、次いで「WEB内の検索機能を付ける」であった。

④ 公園ボランティア活動者への聴き取り調査

- 回収数 : 延べ 146 人
- 調査期間 : 9 月 18 日～12 月 6 日 (80 日間)
- 調査方法 : ボランティア活動終了時の聴き取り
- 調査結果 : (主なもの)

- ・ボランティア活動を知ったのは、「公園だより」が最も多く、次いで「口コミ」であった。
- ・ボランティア活動の参加頻度は、週 2 回から 3 回が最も多く、参加しやすい時間帯としては、9 時～15 時台と 10 時～17 時台であった。
- ・ボランティアの 8 割の方が活動に満足されていた。また、9 割の方が今後とも継続するとの意思が確認できた。

⑤ オールパスポート会員への聴き取り調査

- 回収数 : 51 人
- 調査期間 : 11 月 7 日・8 日 (2 日間)
- 調査方法 : 会員更新時に聴き取り
- 調査結果 : (主なもの)

- ・1 ヶ月間におけるオールパスポート利用頻度では、「1 回～5 回」が約 7 割と最も多く、次いで「6 回～10 回」「10 回以上」がそれぞれ約 1 割を占めた。
- ・来園目的として「散歩・健康のため」が約 5 割と最多であり、次いで「花の観賞」が約 2 割を占めた。
- ・オールパスポート購入動機は、「自然文化園・日本庭園に来園する回数が多いため」が約 7 割と最多で、次いで「価格が魅力的」が約 3 割を占めた。

⑥ 意見箱の設置結果

- 投書数 : 49 件
- 投書内容と対応 : (主なもの)
 - ・園内 7 か所に設置した意見箱に投書された意見で、業務運営に反映できるものは早期に対応するように努めた。

来園者から寄せられた意見と対応措置(主なもの)

主 な 意 見(要 約)	対 応 状 況
園内周遊バスの運行を再開して欲しい	多くの来園者の要望に応えるため、運営業者を変更したうえで、6 月 13 日から試行的に園内周遊バス(森のトレイン)の運行を再開した
日本庭園中央休憩所内売店の販売品目のメニューを増やして欲しい	出店業者の更新にあわせ、庭園の風格に相応しい改装工事を行い、メニューの見直しを行った
早朝観蓮会は休日だけではなく、平日も開園して欲しい	平成 22 年度の早朝観蓮会より、金曜日も早朝開園し、カメラ撮影者等のニーズに応えることとした
同時期に 2 箇所以上で花イベントを実施している際には、分かりやすい誘導サインを設置して欲しい	自然文化園・日本庭園の各ゲートから花イベント会場まで誘導する臨時サインを増設した
日本庭園の園路沿い樹木の下枝が顔に当たるので対処してもらいたい	現地を確認のうえ、景観上問題ない程度に下枝を切り詰めた

■ニーズへの対応

【利用者のニーズに応える施設整備や各種イベントの開催状況】

- 平成 20 年・21 年度のアンケート調査結果を踏まえ、公園利用者のニーズに応えることに加え、平成 22 年 3 月 14 日が日本万国博覧会開催 40 周年の記念にあたることからハード面の施設整備では、日本万国博覧会の遺産施設の修復と活用、エキスポランド跡地の施設整備、便益施設の整備及び機能アップを実施した。また、ソフト面では新規イベントの展開や電子情報媒体のソフトの充実等を積極的に取り組んだ。

(万博開催 40 周年事業)

- ・自然文化園内に保存していた鉄鋼館を日本万国博覧会の記念館(EXPO' 70 パビリオン)として、リニューアルオープンを行なった。また、記念式典には同博覧会に携われた堺屋太一氏、コシノ・ジュンコ氏の著名人を招き、博覧会当時の思い出を語ってもらったほか、当時のパビリオンユニホーム 21 館分 41 着を復元しファッションショーを開催した(3 月 13 日)。
- ・日本万国博覧会の開催日にあたる 3 月 14 日には、朝日放送と連携して 1970 年の生活空間の再現や博覧会の回顧展のほか、人気パーソナリティによる博覧会のトークショーなど、博覧会開催初日を記念するイベントを展開した。
- ・太陽の塔黄金の顔の目玉を省エネタイプの LED 電球に更新し 40 年ぶりに点灯したほか、エキスポランド跡地の暫定利用地において農業体験型施設「ファームエキスポ」をオープンした(3 月 27 日)。
- ・公園全体として万博開催 40 周年記念事業を盛り上げていくため、園内関係施設(民博、民芸館、ホテル阪急エキスポパーク、生活誕生館等)と連携した周年事業を実施することとした。
- ・これら周年事業の広報活動としては、吹田市記者クラブにて報道関係者向けの説明会を実施したほか、EXPO' 70 パビリオンのオープンに先駆け報道関係者への内覧会を行なった。この結果、多くのメディアに取り上げられた(テレビ・新聞などで全国に報道された)。

(ハード面)

➤日本万国博覧会の遺産施設の修復・活用

- ・博覧会終了から保存してきた鉄鋼館を展示施設(EXPO' 70 パビリオン)として再利用するための整備を行った。また、鉄鋼館の 2 階回廊と音楽ホール等を活用し、博覧会当時の展示品の出展や記録映像の上映等により日本万国博覧会を紹介する展示装飾工事も行なった。(3 月 13 日一般公開)
- ・太陽の塔黄金の顔の目玉照明は博覧会終了時から消灯していたが、日本万国博覧会開催 40 周年を機に省エネルギータイプの LED 照明器に更新し、毎日 23 時まで点灯することとした。(3 月 27 日から点灯)
- ・博覧会時に設置された人工池「夢の池」の防水シートが劣化し、貯水不可能となったことから、漏水原因を調査したうえで、平成 22 年度に防水工事を実施することとした。また、夢の池内に存置されている「イサム・ノグチ」の彫刻噴水の塗装も併せて実施することとした。

➤エキスポランド跡地の施設整備

- ・朝市、物産展、農業体験などのニーズに応えるため、農業体験参加型の施設や農産物直売所等を設置した「ファームエキスポ」を開設した。(3 月 27 日)

➤便益施設等の整備及び機能アップ

- ・公園内のベンチ増設など機能アップを実施した。
- ・園内の花スポットにヒルサキツキミソウやサルビア・インディゴスパイヤ等の宿根草を中心とした新たな花品種を導入すると共に、魅力を高める造園整備を行った。

(ソフト面)

➤ イベントの拡充

- ・希望する催し物として、平成 20 年・21 年度で最も要望が多い「夏の納涼祭り」については、8 月 8 日・9 日の夜間、太陽の塔に来園者のメッセージを投射するイベントを行ったほか、東大路通り桜並木の LED 電飾、東の広場でのナイトロハス、辯天納涼花火大会の鑑賞会を実施した。次いで「野外でのミニコンサート」は、EXPO アーティスト in フォレストとしてストリートミュージシャンや大道芸の公演を、年 100 回以上公園の各所で行った。
- ・健康増進や博覧会関連の展示イベントでは、歩き方の指導による健康な身体づくりをテーマにデューク更家氏のウォーク教室を定期的で開催する「森林浴ウォーク」を実施したほか、世界の万国博覧会を紹介する「EXPO×EXPOS 展」を新規に実施した。

➤ 情報媒体の充実

- ・ホームページアンケートの調査結果、「公園だよりが手元に届いた場合来園する」との回答が 90%を超えていたことから、公園のイベント紹介の情報紙を平成 22 年 2 月から 3 ヶ月間、毎月 40 万部を公園周辺居住地に各戸配布した。
- ・また、携帯サイトでは、「園内施設の利用情報」「園内に咲く花情報」の機能充実の要望が多かったため、より見やすく、多くの情報を提供するリニューアルを行った。(10 月 1 日)
- ・さらに、ホームページでは、「公園情報の検索のしやすさ」「イベント・花情報の充実」等の機能充実の要望が多かったため、情報の整理、検索機能や公園散策モデルコースの新規導入などのリニューアルを行った。(平成 22 年 2 月 5 日)

- 四季折々の花の開花等に合わせたイベントの開催(68 件[自主イベント 39 件、持込イベント 29 件])、参加型のスポーツ大会(18 件)など、年間を通じて様々なイベント等を連続的に実施し利用者の満足度を高めた。

(主なイベント、新規イベントは以下のとおり)

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	入園者・利用者数等 ()は前年度数
桜まつり 4 月 1 日(水)～ 12 日(日) ※開花状況()は昨年 4/1～4/5 3 分～7 分 咲き(7 分咲き) 4/6～4/12 満開 (4/7 満開、4/8 落下盛 ん) ※平成 21 年の桜まつり 期間は、3/28(土)～ 4/12(日)	自然文化園「東大路通り」で開催 ・会期中桜のライトアップを 21 時まで実施 ・東の広場の西側園路にて全国大陶器市を 開催 (4/1～4/8) ・アジア各国の様々なフードコーナーの「ア ジアングルメフェア」をお祭り広場にて 開催 (4/3～5) ・東大路通りの桜まつり会場にて、菊正宗 の新酒の試飲会を開催 (4/2～5)	自然文化園 219,549 人 (205,895 人) 対前年比+6.6% =夜間入園者数= 23,685 人 (19,743 人) 対前年比+20.0% <u>[増加理由]</u> 桜の開花後に気温が低下 し、その影響で桜の満開 期間が伸びたことによる 来園者数の増

<p>日本オランダ年 2008－2009 EXPO Park チューリップフェスタ in OSAKA</p> <p>4月11日(土)～ 29日(水・祝)</p> <p>[新規]</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」や園内各施設などで開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年は、日本とオランダが貿易を開始してから400周年となることを記念し、オランダ王国と連携して親善イベントを行った ・会期中の土日祝には、各種の音楽、着ぐるみショー、グッズ販売などオランダに因んだ多彩な催しを行った ・民族学博物館、児童文学館、生活誕生館DILIPA、ホテル阪急エキスポパークと連携し、各館に設置したパネルの出題を解いていくクイズラリーを行った <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 184,640人 (142,269人)</p> <p>対前年比+29.8%</p> <p>[増加理由]</p> <p>今回は、日蘭通商400周年記念事業として、各種イベント等を実施したことによる来園者数の増</p>
<p>ポピーフェア</p> <p>4月11日(土)～ 29日(水・祝)</p>	<p>自然文化園「花の丘」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ、ピンク色のアイスランドポピー35万本と淡いブルー色のネモフィラ約8千本が開花 ・日祝日には「フワフワ太陽の塔」を設置 ・花の丘までのアクセス向上として、森のエコバスを中央口から花の丘までの間を運行した(11日間・1,175人の利用) 	<p>自然文化園 184,640人 (258,812人)</p> <p>対前年比▲28.7%</p> <p>[減少理由]</p> <p>昨年のフェアの期間設定が25日間に対し、本年は19日間に短縮したことによる入園者数の減</p>
<p>環境 EXPO 2009</p> <p>5月4日(月・祝)～ 5日(火・祝)</p>	<p>自然文化園「上の広場」「下の広場」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で不用となったおもちゃなどを持ち込み、子ども達を中心となって販売を行う「キッズエコマーケット」の職業体験を行った(5/4) ・竹を使ったモンゴルのゲル制作の体験コーナーを設けた(5/5)。また、公園で活動しているNPO団体による資源循環型社会の形成を目指した公園づくりの事例紹介や園内における活動現場の見学などを行うエコラリーも同時開催した(5/4・5) <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 31,561人 (31,252人)</p> <p>対前年比+1.0%</p>
<p>ブラスエキスポ2009 「手をつなごう！吹奏楽の仲間たち」</p> <p>5月10日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」、「園内一円」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿2府4県の関西吹奏楽連盟加盟120団体約6,500人のブラスバンドの演奏会を行った ・自然文化園のお祭り広場を中心に東西に分かれ、大規模な「サイコロわくわくドキドキパレード」を行った <p>[万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 20,941人 (14,743人)</p> <p>対前年比+42.0%</p> <p>[増加理由]</p> <p>共催である朝日新聞社の紙面による事前告知の成果</p>

ルピナスフェスタ 5月2日(土)～ 24日(日)	自然文化園「ルピナスガーデン」で開催 ・2品種、約4,000本のルピナスが開花	自然文化園 144,823人 (164,232人) 対前年比▲11.8% [減少理由] 新型インフルエンザ感染 拡大による影響
ローズフェスタ 5月9日(土)～ 31日(日)	自然文化園「平和のバラ園」で開催 ・世界9カ国から寄贈された貴重な品種を 含む81種約5,600本のバラが開花 ・平和のバラ園で愉快的な大道芸やストリー トミュージックを行った ※新型インフルエンザ感染拡大防止のため、5月17日から24日の間の集客イベ ントを中止した	自然文化園 83,312人 (113,075人) 対前年比▲26.3% [減少理由] 新型インフルエンザ感染 拡大による影響
螢の夕べ 6月4日(木)～ 14日(日)	日本庭園「西地区流れ」で開催 ・当庭園に自生する「ゲンジボタル」、「ヘ イケボタル」の観賞(午後9時30分まで 開園時間延長) ※大阪府の新型インフルエンザ感染拡大防 止のためのイベント等自粛要請の解除を 受け、開催期間を変更して実施した	日本庭園 39,142人 (29,438人) 対前年比+33.0% [増加理由] 螢観賞会の期間延長によ る来園者数の増
あじさい祭 6月6日(土)～ 28日(日)	自然文化園「あじさいの森」「桜の流れ」で開 催 ・会期中の6/6～14にはあじさいを季題と した俳句を募集。入選句は、あじさいの 森及び桜の流れに紹介した(6/19～28)	自然文化園 75,756人 (76,866人) 対前年比▲1.4%
ラベンダーフェスタ 6月13日(土)～ 28日(日)	自然文化園「ラベンダーの谷」で開催 ・9品種 約5,000株のラベンダーが開花 ・会期中の各土曜日には、先着100名様に 押し花の体験教室を行った	自然文化園 51,942人 (38,279人) 対前年比+35.7% [増加理由] 新型インフルエンザ感染 拡大防止の外出自粛が解 除された反動による増
早朝観蓮会&象鼻杯 7月4日(土)、5日(日)、 11日(土)、12日(日) 18日(土)、19日(日) 20日(月・祝)	日本庭園内「はす池」で開催 ・26種約1,200株の花ハスの開花に合わせ、 早朝6時からの開園を行った ・各日の来園者には、「特製うちわ」を先着 150名様にプレゼントしたほか、酒造会 社よりお酒の提供を受け、象鼻杯(300名 /日)とハス酒(100名/日)の試飲会を行っ た	日本庭園 9,691人 (8,791人) 対前年比+10.2% [増加理由] 北大阪急行及び大阪モノ レールにおける車内吊ポ スターの宣伝効果

<p>夏も！！「イルミナイト万博！！」 夏だ！アートだ！爆発だ！ 8月8日(土)～9日(日)</p> <p>○辯天納涼花火大会の鑑賞会は8月8日開催</p> <p>○サマーロハスは8月8日・9日の両日開催</p>	<p>自然文化園「太陽の塔・太陽の広場」「東の広場」「東大路通り」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪芸術大学との連携により、携帯電話から送られてきた「太陽の塔へのメッセージ」をリアルタイムに投写したほか、神秘的な“生命の音”のサウンドを同時開催した ・また、東大路通りの桜並木に約9万個のLEDを装飾し、清涼な夏を彩った。このLEDの点灯には、バイオディーゼル燃料(廃食用油を精製し燃料としたもの)を使って発電した電力を用い、低炭素化社会への取組をアピールした ・環境啓発イベントとして定着しつつある「サマーロハスフェスタ」を東の広場で行った [万博公園賑わい創出支援事業] ・8月8日は、辯天納涼花火大会の鑑賞会を東の広場で行った 	<p>自然文化園 25,785人 (12,788人) 対前年比+101.6% [増加理由] 大阪芸術大学と連携を図り、太陽の塔に来園者からのメッセージを投射する光景が新聞各社に大きく取り上げられたことによる宣伝効果</p>
<p>ひまわりフェスタ 8月1日(土)～ 23日(日)</p>	<p>自然文化園「チューリップの花園」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23品種約10,000株のひまわりが開花 ・会期中、レストラン「パークカフェ」ではひまわりに因んだ特別メニューを提供した 	<p>自然文化園 76,968人 (68,468人) 対前年比 +12.4% [増加理由] 期間中のサマーイルミナイトとの相乗効果があった</p>
<p>EXPO×EXPOS 9月19日(土)～ 10月18日(日) 26日間(台風上陸により1日休館)</p> <p><u>[新規]</u></p>	<p>自然文化園「鉄鋼館1階ホワイエ」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年3月13日の鉄鋼館リニューアルオープンのプレイベントとして、博覧会国際事務局(BIE)の世界巡回展を同事務局と連携して実施した。この巡回展は、2008年2月のミラノを皮切りに、国際博覧会を開催したヨーロッパ各国を巡っているもので、国際博覧会150年の歴史と功績紹介のほか、今後開催予定である2010年上海万博・2012年麗水万博・2015年ミラノ万博の紹介も併せて実施された ・また、博覧会当時、鉄鋼館に展示、演奏されていた「池田フォーン」を復元するとともに、この楽器の演奏会を行った(9/19・20、10/17) 	<p>自然文化園鉄鋼館 14,524人</p>

<p>ロハスフェスタ 10月11日(日)・12日 (月・祝)</p>	<p>自然文化園「東の広場」で開催 ・低炭素化社会、資源循環型社会を实践し啓発する「エコ」をテーマとしたフェスタを開催した ・来場者には、主催者発行のタウン紙で使用後の天ぷら油の回収やマイボトル・マイ食器の持参を呼びかけ環境保全への意識向上を図った。また、会場内の飲食は全てリユース食器を使うなど、ゴミゼロエミッションを行った [万博公園賑わい創出支援事業]</p>	<p>自然文化園 64,004人 (47,237人) 対前年比+35.5 % [増加理由] 主催者が発行するタウン情報紙(60万部)の効果とファン層の拡大による</p>
<p>森林浴ウォーク 10月11日(日)・11月7日 (土)・8日(日) [新規]</p>	<p>自然文化園「西地区」で開催 ・森の中の園路にラリーポイントを設け、森林浴が楽しめるウォークラリーやデューク更家氏のウォーク教室を行った ・また、ラリーポイントでは、竹を使った遊びやヨガなどができる体験コーナーを設けた</p>	<p>参加者 3,649人</p>
<p>コスモスフェスタ 10月10日(土)～ 11月3日(火・祝)</p>	<p>自然文化園「花の丘」で開催 ・会期中の土・日には、大阪府立国際児童文学館と連携して「ことば遊び大会」を行うほか、花の小物作りや押し花のしおり作り教室を行った</p>	<p>自然文化園 199,609人 (203,115人) 対前年比▲1.7 %</p>
<p>エコフェスタ in EXPO Park 11月7日(土)・ 8日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「上の広場等」で開催 ・お祭り広場では、リサイクルフェア、リユースマーケット、企業の環境商品の展示などの出展を行った ・上の広場では、吹田市在学の小学生による「地球温暖化防止活動推進ソング」の合唱を行ったほか、園内で活動するNPO団体の環境啓発ブースの出展を行った</p>	<p>自然文化園 22,226人 (10,852人) 対前年比+104.8 % [増加理由] 平成20年度は初日に雨が降り、来園者が大幅に減少したが、本年度は2日間晴天となった</p>
<p>関西文化の日 (入園・入館無料デー) 11月14日(土) ～11月15日(日)</p>	<p>「関西文化の日」の趣旨に賛同し、日本庭園・自然文化園、国立民族学博物館(常設展+特別展)、大阪日本民芸館(特別展は除く)の入園(館)を無料とした</p>	<p>自然文化園 43,778人 (53,951人) 対前年比▲18.9 % [減少理由] 14日午前中に雨が降ったことにより来園者が減少した</p>

<p>ABC ラジオまつり 2009 11月15日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」で開催 ・ABC ラジオの人気パーソナリティによる生公開放送やトークショーなどのステージ展開のほか、変わり種自転車の試乗会、グルメ屋台村等の出店を行った</p>	<p>自然文化園 37,241人 (27,842人) 対前年比+33.8% [増加理由] ラジオでの事前告知の成果と好天に恵まれた</p>
<p>紅葉まつり 10月31日(土)～ 11月29日(日)</p>	<p>日本庭園・自然文化園の「紅葉地域」で開催 ・会期中、茶室汎庵で紅葉弁当の提供を行った ・草月流による竹を使った創作作品及び吹田市菊花連盟による大菊の総合花壇を日本庭園・自然文化園の正面にそれぞれ展示した</p>	<p>自然文化園 187,653人 (207,922人) 対前年比▲9.7% [減少理由] 休日(11/1(日)・11/14(土))の天候不順のため、来園者数が大幅に減少した</p>
<p>X'mas イベント イルミナイト万博 2009: Winter 12月20日(日)～ 12月24日(木)</p>	<p>自然文化園「太陽の広場」「お祭り広場」「下の広場」「上の広場」「東大路通り」で開催 ・大阪芸術大学と連携して、「未来記憶圏からの目覚め<冬>」と題し、太陽の塔に映像や来園者からのメッセージを投写した ・東大路桜並木には、約10万球のLEDの点灯と芸大生の作品も展示したほか、お祭り広場では、子ども用の遊具の設置、下の広場ではロハスショップなどを展開した ・更には、24日クリスマスイブには、約4万個のキャンドルを点灯しクリスマスの雰囲気醸し出した</p>	<p>自然文化園 (16:30以降の入園者数での対比) 12,174人 [5日] (20,084人[6日]) 対前年比▲39.4% [減少理由] 昨年度より開催日が1日短い事や、寒気・雨などの悪天候の影響により来園者が大幅に減少した</p>
<p>2010年 ニューイヤー フェスタ 1月10日(日)</p>	<p>自然文化園「東の広場」「上の広場無料休憩所」で開催 ・忘れ去られつつある伝統的な遊びなどをメディアと連携し行った ・手作り凧教室、凧あげコンテスト、紙飛行機教室、大トンド焼きを行った</p>	<p>自然文化園 3,821人 (4,014人) 対前年比▲4.8%</p>
<p>雪まつり 2月6日(土)、7日(日)</p>	<p>自然文化園「お祭り広場」「下の広場」で開催 ・都会の子どもたちに雪遊びを楽しんでもらった ・兵庫県宍粟市から天然雪約90m³の持ち込み、人工降雪によるスベリ台を4連設置し、子どもたちに好評を得た</p>	<p>自然文化園 18,271人 (23,522人) 対前年度比▲22.3% [減少理由] ・2/6(土)は降雪と強風の寒気により、来園者数が大幅に減少した</p>

<p>梅まつり・つばき祭 2月13日(土)～ 3月7日(日)</p>	<p>[梅まつり]自然文化園「梅林」日本庭園「梅林」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本万国博覧会開催40周年を記念して、自然文化園の梅林に40種40本の新たな梅の品種を植栽し150種700本とした ・会期中の土・日に水車茶屋で梅関連商品の販売を行ったほか、日本庭園茶室(汎庵・万里庵)の特別公開と、汎庵・千里庵では特性松花堂風弁当のサービスも行った <p>[つばき祭]自然文化園「つばきの森」で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つばきの開花に合わせて「祭」と名を打って、珍種ツバキの紹介や会場内への動線誘導など集客に努めた 	<p>自然文化園 70,531人 (94,191人) 対前年比▲25.1%</p> <p>日本庭園 18,799人 (26,538人) 対前年比▲29.2%</p> <p><u>[減少理由]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日が昨年より3日少なかったことに加え、天候不順が続いたことによる大幅減少
<p>万博開催40周年記念事業 EXPO'70パビリオン オープン 3月13日(土)</p> <p><u>[新規]</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本万国博覧会開催40周年記念事業の一環として、鉄鋼館を博覧会の記念館としてリニューアルオープンした ・オープン当日は、博覧会の開催に携わった著名人(堺屋太一氏、コシノ・ジュンコ氏等)を招いて記念式典を行ったほか、博覧会当時のパビリオンユニホーム41着を復元しファッションショーを開催した 	<p>入館者数 618人[14:30～]</p>
<p>万博開催40周年記念事業 万博公園ふれあいの日 (無料デー) 3月14日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本万国博覧会の開催日(3月15日)を記念して、自然文化園・日本庭園、EXPO'70パビリオン、民族学博物館、民芸館(特別展を除く)の入園(館)料を無料とした ・EXPO'70パビリオンは、3月13日のオープン翌日を無料入館とした(30分間隔の入館整理券(2,000枚)は、午前・午後に分け配布した) ・ABCラジオ番組の公開生放送や各種アトラクションによるABCラジオスプリングフェスタ2010を開催した ・また、ABC万国博マラソン大会2010を同時開催した 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然文化園 71,283人 (58,538人) 対前年比 21.8% ・日本庭園 5,953人 (5,993人) 対前年比 ▲0.7% <p><u>[増加理由]</u></p> <p>天候に恵まれたことに加え、40周年事業の盛り上げとしてABCラジオスプリングフェスタのラジオスポットの告知(数百本)が功を奏した。</p>
<p>EXPOアーティストフェスタ2010 3月21日(日)</p> <p><u>[新規]</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に公演予定である大道芸やストリートミュージックの演者が一堂に集結し、多彩なパフォーマンス等の競演を行った 	<p>自然文化園 11,576人</p>

<p>万博開催 40 周年記念事業 太陽の塔黄金の顔目玉 点灯 3月27日(土)、 28日(日) [新規]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本万国博覧会開催 40 周年記念事業の一環として、太陽の塔黄金の顔の目玉点灯を行った ・点灯初日の 27 日には、来園者(子ども 2 人)と機構理事長とで点灯式を行ったほか、太陽の広場において花火の打ち上げと太陽の塔にレーザー光線を投射する記念イベントを行った(27日・28日) 	<p>自然文化園 2,167 人 ※2 日間の入園者数 (16:30~21:00)</p>
<p>桜まつり 3月27日(土)~ 3月31日(水) ※開花状況()は昨年 3/27~3/31 3分咲き (咲き始め) ※平成 22 年の桜まつり 期間は、3/27(土)~ 4/11(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラの開花に合わせ、東大路通り桜並木を中心に「桜まつり」を開催した ・会期中は 18 時から 21 時まで、サクラのライトアップを実施すると共に、同会場で全国大陶器市を併催した 	<p>自然文化園 44,938 人 (35,023 人) ※9:30~16:30 対前年比+28.3% =夜間入園者数= 3,549 人 (1,174 人) ※16:30~21:00 対前年比+202.3% [増加理由] サクラの開花が早まったため</p>

○ スポーツ施設における参加型の催しの実績は次のとおりである。

イベント名・開催期間	開催場所・イベント内容	参加者数 ()は前年度数
<p>2009 万博ナイター陸 上競技大会 8月10日(月)</p>	<p>万博記念競技場 主催：万博記念機構 主管：大阪陸上競技協会 小・中学生を対象とした公認のナイター陸 上競技大会</p>	<p>中学生 1,691 人 小学生 186 人 合計 1,877 人 (1,533 人) 対前年比+22.4% [増加理由] 毎年開催による大会周知 の増</p>
<p>ミズノフェスティバル in 万博公園 11月23日(月・祝)</p>	<p>万博テニスガーデン及び万博フットサルク ラブ 主催：万博記念機構・ミズノ(株) 一般来園者等にテニス及びフットサルを体 験してもらい、入門指導した</p>	<p>テニス 364 名 (401 名) 対前年比▲9.2%</p>
<p>2009 ミズノ杯万博ク ロスカントリー大会 12月23日(水・祝)</p>	<p>万博記念競技場及び自然文化園内クロスカ ントリーコース 主催：万博記念機構・ミズノ(株) 10km・5km・3kmのクロスカントリー大会</p>	<p>3,880 名 (3,104 名) 対前年比+25.0% [増加理由] 宣伝強化とジョギングブ ームのため</p>

2010 万博長距離記録会 2月21日(日)	万博記念競技場 主催：万博記念機構 小・中・高校生の公認長距離記録会(1.5～5km)	563名 (546名) 対前年比+3.1%
万博開催40周年記念事業 第1回フラッグフットボール大会 3月22日(月・祝)	アメリカンフットボール球技場 主催ミズノ(株)・万博記念機構協賛 午前：吹田市内の小学生選抜チームによるフラッグフットボール大会(吹田マーヴィーズ等が指導、運営) 午後：ビリー隊長とブートキャンプ	参加者約1,000名

【民間知見の活用】

- 自然文化園地区において、次のとおり民間の知見を活かした事業を行った。
 - ・野外コンサートは、民間放送会社からの提案を受け、大規模コンサートを年間5回実施した。(会場：もみじ川芝生広場)

開催日	コンサート名&会場	入場者数
7月26日(日)	FM802 MEET THE WORLD BEAT 2009	18,338人 (昨年17,382人)
8月1日(土)	情熱大陸 SPECIAL LIVE 2009	16,200人 (昨年15,484人)
8月29日(土)・ 30日(日)	ウルフルズ ヤッサ 2009	37,348人 (昨年18,885人/1日)
9月12日(土)	風に吹かれて 2009	6,335人 (昨年は開催なし)
	計	78,221人 (昨年51,751人) 対前年度比+51.1% <u>[増加理由]</u> 昨年度より2件(ウルフルズ、風に吹かれて)コンサート件数が増加したため

- エキスポランド跡地一部返還地(4ha)において、「人と自然との共生」、「人との交流」をテーマとして、幅広い世代間において自然を育み・親しむなかで、自然と触れ合い、自然を学習するなどの機会を通じて、あらゆる来園者が参加体験できるレクリエーションとしての施設整備と管理運営を行うことを条件に、企画提案を公募(平成21年8月28日から同年9月8日)し、農業体験型の施設利用提案者に特定した(特定通知日は平成21年10月22日。説明書配布17社、説明会参加14社、企画提案書の提出2社)。

また、エキスポランド跡地プールの暫定利用における企画提案を公募(平成22年2月9日から同年2月23日)し、安心安全の確保とプールの管理運営実績を有する業者に特定した。(特定通知日は平成22年3月25日。説明書配布5社、説明会参加4社、企画提案書の提出1社)。

【各メディアの放映・掲載状況】

- メディア等へのパブリシティ展開として、平成21年度は日本万国博覧会40周年を迎えることから、EXPO'70パビリオン(旧鉄鋼館)のオープンに先駆けプレスプレビューを行った。また、太陽の塔目玉点灯、四季に咲く花の見ごろや各種イベントなどの情報発信のため、大阪府政記

者クラブ及び吹田市記者クラブにタイムリーにプレスリリースを行った。さらに、タウン紙や雑誌、鉄道沿線紙の発行各社に対しても、情報提供を行うなど積極的に広報活動の強化に努めた。

プレスリリース回数	イベント名
28回	1. チューリップフェスタ、2. ポピーフェア、3. つつじ祭り、4. 蛍の夕べ、5. 花しょうぶ祭、6. 森のトレイン運行開始、7. アジサイ見ごろ、8. 基金助成金交付事業の募集、9. 早朝観蓮会&象鼻杯、10. ひまわりフェスタ、11. サマーイルミナイト、12. ハスの写真コンテスト入賞作品決定、13. オオタカの営巣、14. EXPO×EXPOS、15. エコフェスタ IN EXPO、16. ABC ラジオ祭り、17. 関西文化の日、18. 紅葉まつり、19. イルミナイト万博 2009、20. 万博公園に咲く花の写真コンテスト入賞結果、21. 2010 ニューイヤーフェスタ、22. 雪まつり、23. つばき祭り、24. 梅まつり、25. EXPO' 70 パビリオンユニホーム復元、26. 40周年記念事業の開催、27. 万博公園ふれあいの日、28. 桜の開花と太陽の塔目玉点灯

平成 21 年度における放映・掲載状況は次のとおり

メディア	平成 20 年度 放映・掲載件数	平成 21 年度 放映・掲載件数	前年度対比
新聞(読売、朝日、毎日、産経、日経、大阪日日他)	183 件	311 件	+69.9%
テレビ(日本 TV、フジ TV、テレビ朝日、NHK、朝日放送、毎日放送、関西 TV、CATV 他)	152 件	149 件	▲2.0%
ラジオ、ミニコミ紙、雑誌、フリーペーパー(ABC、MBS、FM802、FM851、関西 1 週間、シティライフ他)	349 件	390 件	+11.7%
計	684 件	850 件	+24.3%

【全国への情報発信】

- ・万博記念公園もみじ川芝生広場で開催された野外コンサート「FM802 MEET THE WORLD BEAT2009」がスカイパーフェクトTVで全国に生中継として放映され、また、「情熱大陸 SPECIAL LIVE 2009」の収録がTBSで放送された。
- ・映画「20世紀少年」の「最終章」(平成21年8月29日上映)で、1970年日本万国博覧会の会場風景が全国の映画館で上映された。
- ・日本万国博覧会当時、テーマ館に地下展示されていた「地底の太陽」を捜索している現状が、フジテレビ(1/18放送)、テレビ朝日(1/21放送)で放送された。
- ・EXPO' 70パビリオンのオープニング式典イベントとして、博覧会当時のパビリオンホステスユニホームの復元によるファッションショーを開催した状況が、日本テレビで放送された。
- ・太陽の塔黄金の顔の目玉点灯の式典状況が、TBS放送、NHKで放送された。

【機構が運営する情報媒体】

- ・2010年3月は日本万国博覧会開催40周年に当たることから、40周年事業と公園イベント等の情報を、北摂地区中心に毎月40万部(4ページ)のタブロイド版の情報紙を各戸配布した。(2月~4月)
- ・ホームページと携帯サイトの情報発信量の拡大と機能アップを行った。

➤ ホームページアクセス件数の推移

年 度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
件 数	806,677 件	1,008,188 件	1,050,596 件	1,112,652 件

ロ 入園者数・利用件数の目標

- 平成 21 年度は、新型インフルエンザの感染拡大防止のためのイベント中止や、12 月から 1 月末までの天候不順(寒気)など、集客に悪影響を及ぼす要因が多発した年であったが、イベントの積極的な実施や広報活動等の成果により、自然文化園・日本庭園の入園者数及びスポーツ施設等の利用件数は共に、昨年度実績を上回った。

区分	平成 21 年度 (4 月～3 月)①	平成 20 年度 (4 月～3 月)②	差 (①-②)	達成率 (①/②)
入園者数	1,685,131 人	1,639,204 人	45,927 人	102.8%
利用件数	13,982 件	12,350 件	1,632 件	113.2%

- 年度計画に対する進捗率は、次のとおりである。

区 分	平成 21 年度 (4 月～3 月)①	年度計画 (4 月～3 月)②	差 (①-②)	達成率 (①/②)
入園者数	1,685,131 人	1,403,000 人 [1,298,519 人]	282,131 人 [386,612 人]	120.1% [129.8%]
利用件数	13,982 件	11,480 件 [10,885 件]	2,502 件 [3,097 件]	121.8% [128.5%]

[]内は前中期期間の目標値(平成14年度実績)及びそれに対する差・達成率

② 環境保全への積極的な貢献

イ 自立した森再生への取組

■ 生物多様性の豊かな森づくり

- 『万博記念公園における「自立した森づくり」の計画』に基づき、大学・研究機関・NPO法人等と連携を図りながら、生物多様性に富んだ森づくりの実践を、順応的管理を基本姿勢としながら進めた。
- これまで蓄積してきた森づくりや動植物に関する各種調査データを検証し、「自立した森再生研究委員会」の指導・助言を得ながら、今後の森づくりへの反映手法について研究を行うとともに、当該データにより得られた知見は、季刊誌等の活用で情報発信に努めた。

《第 7 回自立した森再生研究委員会 (8 月 10 日開催)》
・ 京都大学大学院教授ほか 3 委員出席
・ 蓄積データの検証方法等について意見交換
《第 8 回自立した森再生研究委員会 (3 月 2 日開催)》
・ 京都大学大学院教授ほか 5 委員(全委員)出席
・ 検証により得た知見の今後の森づくりへの反映手法について意見交換

◇自立した森再生研究委員会委員(50音順)

氏名	所属	専攻
澤木 昌典	大阪大学大学院工学研究科教授	環境・エネルギー工学
菅井 啓之	京都ノートルダム女子大学教授	自然教育・環境教育
須川 恒	龍谷大学講師	鳥類生態学
夏原 由博	京都大学大学院地球環境学堂教授	環境生態学(動物)
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学堂教授《委員長》	環境生態学(植物)
山本 聡	兵庫県立大学大学院教授	緑地計画学

- 「自然文化園自立した森づくり調査」研究を京都大学と共同で行ったが、今年度は、「間伐区」を2箇所新設した。

◇間伐区：「園路沿いの林縁植生の多様化」、「花木の日照確保」をそれぞれのテーマとした間伐区を設定

◇ギャップ区・間伐区開設の箇所数(自然文化園、密生林内)

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	計
間伐区	1	2	3	—	1	1	1	2	1	2	14
ギャップ区	4	3	1	1	1	1	—	—	1	—	12

※「ギャップ」とは、森林において台風などにより倒木が発生して生じた空間をいい、これを人工的に造るものである。

■生物生息環境の保全・管理

- 当公園に生息する希少生物の保護増殖について、昨年度に引き続き、関係行政機関、研究会等との意見交換や専門的見地からの支援要請を行うなど、適切な管理を行った。特に、里山生態系の健全な状態を「指標」する種といえるオオタカは、平成19年度から3年連続して繁殖に成功し、平成21年度も1羽が繁殖した。このため、園内で営巣するオオタカの生息環境保全については、次のとおりの取組を行った。

◇「万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会」の設置

《第1回万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会(1月19日開催)》
・京都大学大学院教授ほか4委員(全委員)出席
・営巣環境保全のための具体策について検討の上、機構に対して提言書の提示

◇万博記念公園オオタカ生息環境保全委員会委員(50音順)

氏名	所属
稲波 誠	吹田野鳥の会幹事
須川 恒	龍谷大学講師
高畠 耕一郎	(社)大阪自然環境保全協会理事、吹田自然観察会事務局長
平 軍二	日本野鳥の会大阪支部長
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学堂教授 《委員長》

◇「日本万国博覧会記念機構公園施設利用規程」の改正

- ・生物生息・生育環境の保全に配慮した公園利用を促すため、「利用規程」を改正し、立入禁止区域の設定や禁止行為の追加、違反者への指導根拠を明確化した。

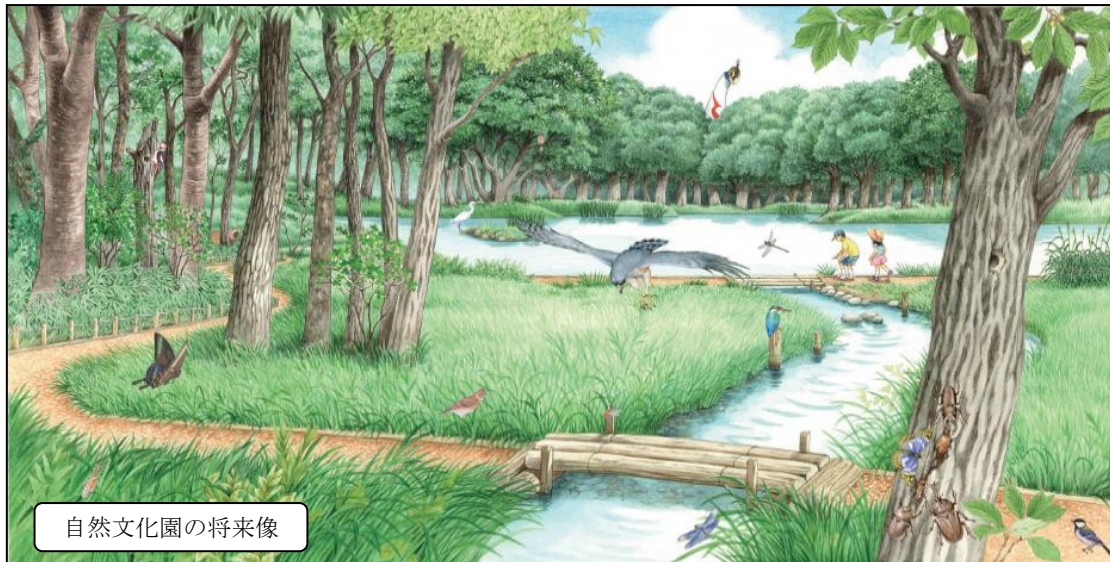
- 現在、取り組んでいる「森づくり」や「動植物の調査」の状況を、季刊誌『森発見』等で次のとおり情報発信した。

◇季刊誌『森発見』掲載一覧

掲載内容	掲載号（発行日）
ホタルの飛び交う公園を目指して（自立した森再生事業の歩み⑭）	No.14(6月15日)
森の分解者「キノコ」の役わり（万博記念公園の観察記録から）	
毎木調査（自立した森再生事業の歩み⑮）	No.15(9月15日)
自然観察学習館 指導リーダーの会（万博記念公園の観察記録から）	
園路に光を－野鳥の森の間伐－（自立した森再生事業の歩み⑯）	No.16(12月15日)
越冬する昆虫（万博記念公園の観察記録から）	
都市の中で森林を再生する（自立した森再生センター便り）	No.17(3月15日)
春の野草観察（万博記念公園の観察記録から）	

◇「自立した森」の将来像図の作成・展示

- ・3月にオープンした「EXPO`70パビリオン」に森の将来像図を展示した。



自然文化園の将来像

- 自立した森再生事業の一層の拡充を図るため、次のとおり大学等の研究機関・NPO・ボランティア等と協働して、生物調査を実施した。

生物生息環境調査結果(平成 21 年度調査)

調査名 (調査機関)	調査内容	調査結果等
多様な生物相復元のためのエコアップ手法の確立 (大阪府環境農林水産総合研究所、大阪府立大学)	「芝生地」と「樹林地」との境界部に、雑草地によるエコトーンを設け、生物多様性の変化を探る	生物多様性向上のための芝生管理手法として、刈高調節管理および刈頻度調節管理の有効性を確認した。 ・刈高は高い(50cm)ほど、頻度は少ない(1/8回)ほど、多様性が高まる。 ・ただし、調査箇所数が少なく結果の有意性は継続調査による評価が必要(場所による変異の確認)
園内の野生生物生息調査 (社)大阪自然環境保全協会)	ギャップ区・間伐区を含む野生生物調査(トンボ・チョウなど昆虫、両生類、爬虫類他)	調査回数：31回 (例)森林性のチョウである「サトキマダラヒカゲ」、「クロヒカゲ」を確認
特定外来生物等生息状況調査 (社)大阪自然環境保全協会)	生態系を乱す特定外来生物等の生息調査	調査回数：12回 ウシガエル、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、アゾラ、ジャンボタニシ等の確認と一部駆除
野鳥の生息調査 (吹田野鳥の会)	自然の森再生に向け、渡り鳥や留鳥等の個体数・種数等のデータの蓄積及び解析を継続調査	《渡り鳥調査》 調査日：4/15～5/5の毎日 観察種数：51種(54種) 考察：ヒタキの仲間の種数減 ニュウナイスズメ・マヒワの大群確認 《万博公園探鳥会》 調査回数：12回 観察種数：56種(59種) ()は昨年度種数 ※野鳥の種数については、全体としては大きな増減は認められないが、種の内容でみると、草原性の野鳥が減少している反面、森林性の野鳥が増加しており、森の再生が進んでいる指標となっている。

- ロ 環境問題への対応

【剪定枝等の再利用】

- 園内の緑地管理に伴い発生した間伐材・剪定枝・根株などは、昭和 50 年代から、園内でチップ化・堆肥化して再利用している。

平成21年度においては、園内でチップ化してマルチング(根の保護・雑草防除などのために地表に撒くこと)材として、また、チップを更に熟成させた堆肥を花壇等の肥料として再利用したほか、一部余剰分については、堆肥、竹炭として園内で販売(堆肥：900g入・3,424袋、竹炭：200～350g入・383袋)し、環境保全の普及啓発に努めた。

- 10月8日に通過した台風18号による被害木及び風倒予防対策として実施した西大路プラタナス剪定により発生した幹材・枝を、バイオマス発電用材として発電所へ運搬した。(約100トン)

【木質バイオマス有効活用及び足湯】

- 公園内間伐材等を利用した「木質バイオマス有効活用実証試験」を平成18年度から引き続き実施し、山村や公園での実用性に主眼をおいた小規模で簡素なバイオマス有効活用システムの構築に取り組むとともに、その仕組みと運転状況について見学会を実施した(4月～3月計18日間、参加者計191名)。
- 木質バイオマスの有効活用実験で運転しているボイラーから出る温湯を利用して、足湯を運営している。

足湯の月別利用者数

年度 月別	平成20年度		平成21年度	
	利用数	稼動日	利用数	稼動日
4月	3,996	25	3,979	25
5月	3,600	27	3,902	27
6月	—	—	—	—
7月	—	—	—	—
8月	—	—	—	—
9月	—	—	—	—
10月	4,144	26	4,682	26
11月	4,305	26	4,177	26
12月	—	—	—	—
1月	—	—	—	—
2月	2,808	24	2,822	24
3月	3,713	27	3,370	26
計	22,566	155	22,932	154

【新たな環境技術開発への貢献】

- 万博公園のコンポスト(堆肥)に含まれる微生物の多様性を分析し、バイオマスの積極的な利用促進に資する技術開発を行うことを目的とした研究を、大阪大学(工学研究科)と共同で実施した。(「共同研究契約」を締結)
 ※コンポストサンプルから有用酵素生産菌を抽出し、産業利用可能な酵素遺伝子の取得を目指すもの。

【データ公表】

- これまでの環境保全の取組等について、広く情報発信するため、季刊誌『森発見』を活用し、連載方式「シリーズ万博記念公園の環境」として掲載した。

季刊誌『森発見』掲載一覧表

掲載内容	掲載号(発行日)
第1回 万博記念公園の森による地球温暖化とヒートアイランド現象の緩和効果	No.14(6月15日)
第2回 森林の持続可能性を目指して — 活かしたい里山の智慧 —	No.15(9月15日)
第3回 ふたつの国際条約 — 万博記念公園の地球規模の環境問題への貢献 —	No.16(12月15日)

【リターナブル食器導入等の美化推進】

- 廃棄物の縮減を目的として、NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ及び園内売店と連携して、イベント時の臨時売店でリターナブル食器を利用するとともに、来園者にその意義をアピールした。リターナブル食器利用数(平成 20 年度 2,184 個、平成 21 年度 2,408 個。対前年度比+10.3%)
- 平成 20 年度から開始した園内の売店から出される廃食油を社会福祉法人さつき福祉会(吹田市)と連携してバイオエタノールとする試みも進展し、これからできた石鹼(グリセリン)を公園内のトイレ清掃に役立てるのみならず、イベント時の発電をバイオディーゼル発電機で行い、イベント参加者にアピールした。一方、一般来園者からも廃食油の受入れも開始した。廃食油受入量(平成 20 年 1,399ℓ、平成 21 年度 2,398ℓ。対前年度比+71.4%)
 なお、この活動は、平成 21 年度大阪府地球温暖化防止活動推進センターが実施した「一村一品、知恵の環づくり事業」において優秀賞(第 2 位)となった。

【太陽光発電設備】

- 機構と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究事業「太陽光発電新技術等フィールドテスト事業」として設置された太陽光発電設備は、運転や気象の採取データを NEDO に四半期ごとに報告(平成 23 年度まで継続)するとともに、NEDO と協議の上、平成 19 年 3 月からは太陽光発電装置の発電実績等を取りまとめ、機構のホームページでも公表している。

年 度	年間発電量(KWh)	CO2 削減量(t-CO2)
平成 21 年度	221,613	83.7
平成 20 年度	223,502	84.4
平成 19 年度	230,548	87.1
平成 18 年度	214,751	81.2

③ 民間団体との協働による地域社会への積極的な貢献

【NPO 法人等との協働による資源循環型公園づくり】

- 参加型イベント「万博エコラリー」の開催(5 月 4・5 日)
 - ・「環境エキスポ 2009」において、園内で活動している NPO 法人と連携し、資源循環型社会の形成を目指した公園の環境保全への取組状況を紹介するエコラリーを実施した。

プログラム名	団体名	参加延人数
自然のぞき見体験	(社)大阪自然環境保全協会	1,085
自然エネルギーで焼印コースター作り体験	NPO 法人里山倶楽部	771
森の足湯(菖蒲湯)		3,902
折り紙遊び・紙ひこうきづくり	NPO 法人スマイルパーク	1,109
園内地産地消活動のパネル展示		
チューリップの球根掘り体験	NPO 法人ベスト	554
万博エコ堆肥づくり体験		534
水生生物の展示	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	927
廃食油回収&廃食油で作るバイオディーゼルの展示		781
野草茶の試飲体験	NPO 法人野と森の遊び文化協会	716
竹のマイカップづくりとカップ酒等の試飲体験		2,069
エコツアー体験	NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	49
計		12,497

○ NPO 法人等との協働による“資源循環型公園づくり”の実施

- ・下表 1 の 10 業務を委託するとともに、「中間支援業務」(受託団体のボランティア等に対し指導・助言を行いながら相互の連携を図り、機構との調整を行う業務)を「NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構」に委託した。
- ・また、各 NPO 法人等のボランティアスタッフを万博公園で育成するため、機構と NPO 法人等が協働して下表 2 のとおり、各種養成講座を開催した。これらの、NPO 法人等と協働して取り組んでいる「資源循環型公園づくり」を広く市民に体験してもらうため、次のとおりイベントを開催した。
 - ・イベント数： 31 種
 - ・開催回数： 97 回
 - ・参加者数： 3,379 人

1 NPO 法人等に委託した公園管理等業務

	業務名	団体名
1	花園創出管理	NPO 法人ベスト
2	花壇管理	NPO 法人ベスト
3	園内野生生物生息調査	(社)大阪自然環境保全協会
4	農業体験支援	NPO 法人野と森の遊び文化協会
5	循環市民の森づくり	NPO 法人里山倶楽部
6	竹林資源活用	NPO 法人野と森の遊び文化協会
7	美化推進	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
8	日本庭園・自然文化園水質維持	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ
9	足湯運営管理	NPO 法人里山倶楽部
10	広報活動支援	NPO 法人スマイルパーク

2 環境ボランティア養成講座

講座名	開催回数(回)	参加人数(人)
初級竹仙人養成講座	6	120
初級自然循環型伝承農法士講座	5	79
初級温室効果ガス削減士養成講座	2	10
万博循環型社会推進大学講座	19	119
植物・生きものかんさつ調べ	8	51
万博記念公園自然環境セミナー	6	76
循環型森づくり講座	4	36
万博・生きもの見分け方講座	7	164
植物観察会	2	22
園芸マイスター養成講座	3	36
ツリークライミングファシリテーター養成講座	1	4
合計	63	717

(注) 1 日だけの参加が可能な講座は、記載を省略

- エコフェスタ in Expo Park において、本公園で循環型モデルパークづくりに取り組んでいる NPO 法人等全団体が参加して、下表の地産地消イベント等を開催した。(11月8～9日)

プログラム名	団体名	参加延人数
スティック竹とんぼ作り、竹とんぼゴルフ、竹炭による啓発等	NPO 法人野と森の遊び文化協会	913
野草茶クイズ		523
野草茶試飲		545
稲の脱穀体験		635
自然のぞき見体験	(社)大阪自然環境保全協会	608
ネイチャークイズ・ネイチャークイズショー		536
廃てんぷら油の回収	NPO 法人インクルージョンプログラムボラトリ	13
万博バイオディーゼル燃料システムの解説等		2,072
万博 R 洗剤の解説等		553
リユース食器による啓発		1,066
エコノートによる啓発		259
万博公園の水で育む水生生物とのふれあい体験		727
折り紙遊び・紙ひこうきづくり	NPO 法人スマイルパーク	825
園内地産地消活動のパネル展示		825
チューリップの植え付け体験	NPO 法人ベスト	251
万博エコ堆肥づくり		57
樹木発電によるコースター作り	NPO 法人里山倶楽部	668
丸太切り体験		667
万博公園内の自然エネルギーのパネル展示	NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	106
計		11,849

【次世代型統合医療】

- 自然文化園内において実施される「万博記念公園における統合医療」実証試験に対する支援を行った。(万博公園賑わい創出事業 ※2-2を除く)

1 認知症予防

	実施内容	実施日	人数
1	講演会「認知症にならないために」	4/ 4	108
2	認知症予防プログラム：事前検査	7/13	25
3	認知症予防プログラム：第1回(木工教室、森林療法、園芸療法)	7/23	23
4	認知症予防プログラム：第2回(絵本づくり、森林療法、園芸療法)	8/27	18
5	認知症予防プログラム：第3回 (アロマセラピー、森林療法、園芸療法)	9/24	18
6	認知症予防プログラム：第4回 (どんぐりクッキー、森林療法、園芸療法)	10/22	16
7	認知症予防プログラム：第5回(バードウォッチング、園芸療法)	11/26	19
8	認知症予防プログラム：第6回(リース、森林療法、園芸療法)	12/24	14
9	認知症予防プログラム：第7回(ハーブ、森林療法、園芸療法)	1/28	14
10	認知症予防プログラム：第8回(森林療法、園芸療法、効果測定)	2/25	14
計		10回	269

2 ストレス解消

	実施内容	実施日	人数
1	講演会「ストレスから身を守る」	7/25	63
2	ストレス軽減プログラム：試行	12/14	18
	計	2回	81

【自然観察学習館】

- 地域社会に貢献するため、自然観察学習館の活動として、自然観察会や森の工作教室等の体験学習を66回開催した。

体験学習の開催回数

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
実 績	53 回	67 回	66 回

平成 21 年度における体験学習の開催状況 (単位：人)

	行事名	実施日	参加数	備考
1	初めての植物写真講座 (1)	4/ 5(日)	18	
2	季節の植物観察ガイド (1)	4/10(金)	27	
3	木や竹、木の実を使った工作	4/11(土)	24	
4	春の昆虫観察会	4/12(日)	71	
5	初めての植物写真講座 (2)	4/19(日)	15	雨天
6	木や竹、木の実を使った工作	4/25(土)	1	雨天
7	新緑の観察会	4/26(日)	15	雨天
8	万博お茶摘み大会	5/ 3(日)	394	H20 : 455
9	季節の植物観察ガイド (2)	5/ 8(金)	24	
10	木や竹、木の実を使った工作	5/ 9(土)	35	
11	チョウの観察会	5/10(日)	31	
12	野鳥観察会—鳥のさえずり—	5/16(土)	21	
13	木や竹、木の実を使った工作	5/23(土)	—	雨天中止
14	樹に咲く花の観察会	5/24(日)	—	雨天中止
15	季節の植物観察ガイド (3)	6/12(金)	25	
16	木や竹、木の実を使った工作	6/13(土)	19	
17	トンボの観察会	6/14(日)	66	
18	きのこの観察会	6/14(日)	45	
19	木や竹、木の実を使った工作	6/27(土)	15	
20	水辺の植物の観察会	6/28(日)	13	
21	木や竹、木の実を使った工作	7/11(土)	20	
22	水辺の昆虫の観察会	7/12(日)	43	
23	野鳥観察会-夏鳥をみよう(1)	7/18(土)	14	
24	木や竹、木の実を使った工作	7/18(土)	10	
25	夏休み星座懇望会(皆既日食)	7/22(水)	70	
26	セミの羽化の観察会	7/28(火)	31	
27	木や竹、木の実を使った工作	8/ 2(日)	25	
28	木や竹、木の実を使った工作	8/ 9(土)	17	
29	セミの観察会	8/ 9(土)	—	雨天中止

30	木や竹、木の実を使った工作	8/22(土)	47	
31	野鳥観察会-夏鳥をみよう(2)-	8/22(土)	9	
32	バッタの観察会	9/13(日)	65	
33	季節の植物観察ガイド(4)	9/18(金)	11	
34	木や竹、木の実を使った工作	9/19(土)	23	
35	夏の星座の観望会	9/19(土)	38	
36	木や竹、木の実を使った工作	9/26(土)	22	
37	木や竹、木の実を使った工作	9/26(土)	22	
38	季節の植物観察ガイド(5)	10/ 9(金)	16	
39	木や竹、木の実を使った工作	10/10(土)	24	
40	コオロギの観察会	10/11(日)	33	
41	どんぐりクッキーを作ろう(1)	10/12(祝)	42	
42	どんぐりクッキーを作ろう(2)	10/17(土)	48	
43	珍しい植物の観察会	10/18(日)	24	
44	木や竹、木の実を使った工作	10/24(土)	29	
45	木の実、種子の観察会	10/25(日)	31	
46	万博ネイチャーラリー	11/ 3(祝)	2,618	
47	初めての草木染め	11/08(日)	29	
48	季節の植物観察ガイド(6)	11/13(金)	7	雨天
49	木や竹、木の実を使った工作	11/14(土)	7	曇天
50	野鳥観察会 - 鳥の渡り -	11/14(土)	6	曇天
51	紅葉の観察会	11/22(土)	13	曇雨天
52	木や竹、木の実を使った工作	11/28(土)	31	
53	クリスマスリース作り	12/ 5(土)	31	
54	季節の植物観察ガイド(7)	12/11(金)	-	雨天中止
55	ミニ門松作り	12/12(土)	50	
56	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう(1) -	12/19(土)	14	
57	針葉樹の観察会	12/20(日)	14	
58	季節の植物観察ガイド(8)	1/ 8(金)	19	
59	越冬昆虫の観察会	1/10(日)	40	
60	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう(2) -	1/16(土)	19	
61	樹皮・樹形の観察会	1/24(日)	28	
62	冬の野鳥観察講座	2/ 7(日)	27	
63	季節の植物観察ガイド(9)	2/12(金)	19	
64	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう(3) -	2/20(土)	26	
65	冬の星座観望会	2/27(土)	48	
66	冬芽の観察会	2/28(日)	19	
67	季節の植物観察ガイド(10)	3/12(金)	22	
68	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう(4) -	3/20(土)	35	
69	木や竹、木の実を使った工作	3/27(土)	18	
70	春の野草の観察会	3/28(日)	18	
	計	66回	4,731	

- 自然観察学習館では、当公園内に生息する動植物の季節展示のほか、当公園の自然をテーマとした地域の写真家の作品の展示を行った。

	展示名	期 間	備 考
1	野鳥展(繁殖期の園内の野鳥の紹介、解説)	4/16～5/25	季節展示(本館)
2	植物からのメッセージ【河面 堯】(写真)	4/16～5/26	特別展示(新館)
3	水と生物展	5/28～7/6	季節展示(本館)
4	万博公園の森づくり(ジュニア版)	5/28～9/29	特別展示(新館)
5	夏の自然展	7/9～8/24	季節展示(本館)
6	初秋の自然展	8/27～9/21	季節展示(本館)
7	秋の自然展	9/23～11/30	季節展示(本館)
8	写真で見る野鳥たち	10/1～11/4	特別展示(新館)
9	万博公園の森づくり(ジュニア版)	11/5～3/31	特別展示(新館)
10	冬の自然展	12/3～2/8	季節展示(本館)
11	春の自然展	2/11～4/12	季節展示(本館)

【学校等への教育の場の提供】

- 自然観察学習館や学習プログラムのPRを行うなど、本公園の利用促進を働きかけた結果、「生活科・総合的な学習の時間」として学習館を使用した学校数等は、次表のとおりとなった。なお、受入れに当たっては、学習館の運営に協力するボランティア団体「ソラードの会」の協力を得て実施した。

年度別一覧表

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
学校数(校)	37	37	30
延べ人数(人)	3,377	3,527	2,947

※平成 21 年度の春季は、新型インフルエンザの影響による大幅減

- 吹田市の小中学校初任者教職員等の環境教育現地研修会「自然観察・環境学習フィールドワーク」を吹田市教育センターと共同で実施した。当該研修では、機構職員がボランティア団体やNPO法人と協力して「自立した森づくり」や「緑の循環システム」の取り組み状況の説明及び現地案内、学習館で木工作実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。(8月19日、参加教職員79名)
- 高槻市の小中学校教員の生活科研修会「遠足が変わる(自然文化園でこんなこともできるのか!)」を高槻市教育センターと共同で実施した。当該研修では、学習館ボランティア団体の協力のもと、学習館で木工作実習及び自然観察学習プログラムを利用したフィールドワーク等の指導を行った。(8月24日、参加教員16名)

【その他の地域社会への積極的な貢献】

- 地域社会へ積極的に貢献するため、NPO法人等と協働して、次の活動を行った。

活動内容	団体名	実施日等	参加延人数
環境保全体験支援(筍間伐体験等) ・吹田市障害者交流センターの入所者 ・社会福祉法人さつき福祉会の利用者	NPO 法人野と森の遊び文化協会	4月計 11回	425
		5月計 2回	24
	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	6月計 6回	141
		7月計 7回	97
	NPO 法人 大阪府民循環型社会推進機構	8月計 2回	26
		10月計 3回	33
		11月計 3回	33
		12月計 3回	130
		3月計 1回	19
就労体験支援 ・吹田障害者交流センター ・社会福祉法人さつき会の障害者等	NPO 法人野と森の遊び文化協会	4月計 36回	317
		5月計 22回	117
	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	6月計 12回	184
		7月計 9回	128
	NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	8月計 9回	73
		9月計 10回	109
		10月計 10回	96
		11月計 23回	195
		1月計 15回	189
		2月計 12回	192
	3月計 12回	126	
NPO 法人すいた環境学習協会の関係者を対象としたエコツアーの実施	NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	4月計 1回	32
林業・木材製造業労働災害防止協会との連携によるエコツアーの実施	NPO 法人野と森の遊び文化協会 NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	5月計 4回	124
NPO 法人「育て上げ」ネットとの連携により「大阪の若者のための仕事体験事業」に係る若年ニートを対象にした就労体験インターン支援を実施	NPO 法人里山倶楽部	5月計 2回	10
	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	6月計 2回	18
		7月計 2回	5
		8月計 2回	5
		10月計 2回	37
		12月計 2回	7
吹田市立片山中学校理科部との連携により生徒による「セミの脱け殻調査」を実施	NPO 法人大阪府民循環型社会推進機構	8月計 2回	10
(財)大阪教育振興公社との連携により、学童保育施設における児童を対象に体験学習を実施	NPO 法人インクルージョンプログラムラボラトリ	8月計 2回	14
大学生を対象に環境保全体験学習を実施	NPO 法人野と森の遊び文化協会	9月計 2回 11月計 2回	2 2
計		233回	2920人

【地域の防災等に関する施策への貢献】

- 「大阪府地域防災計画」に基づく「北部広域防災拠点」に係る備蓄倉庫用地の貸付や、大規模災害発生時における「後方支援活動拠点」としての用地使用承認を行っているほか、近隣自治体の広域避難場所や大阪府ドクターヘリの離発着場等としても公園を提供し、地方自治体の防災行政等に積極的に協力している。

広域防災拠点・避難場所の提供一覧

地方公共団体等	指定内容	使用場所	承認時期
大阪府	陸上輸送基地・後方支援活動拠点	スポーツ広場、南第1・2駐車場	平成7年12月
	北部広域防災拠点の臨時ヘリポート及び活動の場	東駐車場、万博記念競技場	平成14年8月
	国民保護避難施設(武力攻撃事態等における近隣市の避難場所)	公園全体	平成19年3月
	ドクターヘリの緊急離着陸場	東の広場、運動場、南第2駐車場	平成20年1月
吹田市	広域避難場所	公園全体	昭和57年1月
吹田市消防本部	ヘリコプター臨時離着陸場	東の広場	昭和55年
茨木市	広域避難地	公園全体	昭和55年10月
大阪府下消防長会	消防応援隊集結場所	駐車場	平成8年

- 機構としての危機管理の一般指針及び具体的な行動マニュアルに加え、大阪府において「北部広域防災拠点」及び「後方支援活動拠点」が開設された場合の機構としての役割等を定めた活動マニュアルを、平成21年5月に策定した。

また、これらの拠点を所管する大阪府危機管理室と合同で、同マニュアルの検証を兼ねた訓練を下記のとおり行った。

日時 平成21年12月16日(水) 10:00~12:00

内容 北部広域防災拠点・後方支援活動拠点活動マニュアルの現地検証

参加 機構職員等9名、大阪府危機管理室3名、大阪府緊急防災推進員20名

- 吹田市消防本部などが実施した防災訓練等に、公園施設を提供するなどの協力を行なった。自治体等への協力等の状況

実施日	相手方	提供場所	内 容
5月26日 27日	吹田市消防本部	自然文化園「夢の池」	水難救助訓練(消防署員27名参加)
9月2日	吹田市消防本部	自然文化園「東の広場」	吹田市地域防災総合訓練の一環としての「消防ヘリコプターによる救助訓練」(消防署員20名参加)

9月6日	大阪府危機管理室	自然文化園「お祭り広場」	大阪府消防大会・消防操法訓練大会 (府下の消防団員1,786名参加)
10月17日	吹田市消防本部	南第2駐車場	平成21年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に伴う大阪府隊結集訓練(車両25台、120名参加)

- 吹田市消防本部等からの依頼により、自然文化園「東の広場」を、遠隔地から公園周辺の医療機関に患者緊急搬送のためのヘリコプター着陸場所として提供した。

実施日	相手方	提供場所	内 容
7月19日	吹田市 消防本部	自然文化園 「東の広場」	高知県から国立循環器病センターへ
8月19日			高知県から国立循環器病センターへ
10月13日			高知県から国立循環器病センターへ
10月19日			広島県から国立循環器病センターへ
11月9日			徳島県から国立循環器病センターへ
1月4日			高知県から国立循環器病センターへ

- 公園内の5箇所の井戸は、大規模な地震災害等が発生し、水道の供給が停止した場合に、飲用水以外の生活用水を確保することを目的として、近隣の被災者へ井戸水の提供について協力する、「災害時協力井戸」として大阪府に登録している。

(2) 基金に関する事項

① 効果的な助成金の交付

○ 助成対象の重点化

基金事業においては、日本万国博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動又は国際相互理解の促進に資する活動に対し助成金を交付することとしている。

平成 21 年度においては、前年度に引き続き、当機構の第 2 期中期計画に基づいて、国内外の助成対象事業については、環境・公園に関連する事業へ重点化することとし、このうち公園に重点化する事業として「万博公園賑わい創出支援事業」(後述)をさらに推進していくこととした。

また、万博の成功を記念するにふさわしい事業であれば、伝統文化、地域文化などに関する諸活動に対しても引き続き支援を行うこととした。

○ 平成 22 年度助成事業募集の広報活動の拡充

環境・公園に関連する事業に助成対象を重点化したことに伴い、助成事業の更なる周知を図るため、次のとおり申請手続き等の広報の拡充を図った。

- ・募集要項及び申請書を機構ホームページへの掲載及び官報への登載

(平成 21 年 7 月 1 日)

- ・報道資料提供 吹田記者クラブ、豊中記者クラブ、大阪府政記者クラブへ提供

(平成 21 年 7 月 1 日)

- ・周知依頼 前年度の 397 団体に加え、平成 21 年度は新たに、都道府県教育委員会、各政令指定都市(国際交流・文化・NPO 担当部局、環境政策担当部局、教育委員会)、関係団体(日本エネルギー学会、国立環境研究所、NPO サポートセンター等) など 128 団体(合計 525 団体)に対して周知依頼を行った(平成 21 年 7 月 6 日)。

(397 団体の内訳)

文化庁、内閣府、環境省、各都道府県の国際交流・文化・NPO・環境政策担当部局、(独)科学技術振興機構、国立・公立・私立大学協会、全国の主要大学(214 校)、全国の地方紙(46 紙)、電子情報通信学会、日本医学会、日本化学会、日本物理学会、応用物理学会、環境技術学会、日本 NPO センターなど

上記依頼先のうち、地方公共団体関係(28)、大学(21)、学会(8)、助成財団センターなどその他の団体(13)の合計 70 団体のホームページに募集情報が掲載されていることを確認した。

- ・環境関係専門誌への掲載

日経 BP 社が発行する環境に関係する幅広い情報を企業、研究機関に提供している専門誌「日経エコロジー9月号」に、平成 22 年度募集の情報を掲載した(平成 21 年 8 月 7 日発行)。

- ・「万博公園だより」の活用

当機構が毎月発行している「万博公園だより」において、平成 21 年度新たに基金事業を紹介する紙面を定期的(年 4 回)に確保した。また、平成 22 年度助成事業の募集にあたり、9月号に特別枠を設け、募集の情報を掲載し、全国の大学や助成事業者等に配布した。

○ 基金事業リーフレットの作成

基金事業について周知を図るため、制度の概要やこれまでの助成実績などをわかりやすくまとめたリーフレットを作成した。助成事業者の協力を得て、国際会議や公演展示など多数の参加者が見込まれる事業会場で配布し、基金事業の知名度の向上に活用する予定である。

○ 機構ホームページの充実

平成 22 年度助成申請における調査結果では、募集情報の入手先を「当機構 HP」とした回答が約 7 割(138 件/延べ回答 218 件)であったことから、ホームページ「基金事業ニュース」及び助成制度を解説したページ(万博基金 Q&A)の拡充など、助成申請に当たってわかりやすいホームペ

ーじづくりに努めた。

(募集情報の入手先)

	当機構 HP	万博公園 だより	官報	新聞	地方公 共団体	学会	大学	日本大使 館・総領 事館	その他	合計	申請件 数
国内 事業者	118 (56)	3 (0)	(0) (0)	(0) (0)	8 (3)	13 (9)	12 (4)		18 (8)	172 (80)	132 (63)
国外 事業者	8 (4)	1 (1)	1 (0)					22		32 (5)	24 (11)
賑わい	12 (12)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	14 (14)	12 (12)
合計	138 (72)	5 (2)	2 (1)	0 (0)	8 (3)	13 (9)	12 (4)	22 (0)	18 (8)	218 (99)	168 (86)

()は、総回答数のうち重点事項該当事業からの回答

○ 平成 22 年度一般助成事業

- ・受付期間 9月1日～30日(当日消印有効)
- ・申請件数 156件 うち「環境に関連する事業」 74件
- ・申請金額 775,619千円 うち「環境に関連する事業」 427,134千円

平成 22 年度の助成事業の募集にあたっては、さらに広報活動の充実(周知依頼の拡充、「万博公園だより」及び専門誌への情報掲載)を図ったことなどにより、前年度募集と比較して、申請件数で 29 件(前年度実績 127 件)、申請金額で 205,781 千円(前年度実績 569,838 千円)増加した。

一般助成事業の状況

単位：件、千円

年度	申請		交付決定		採択割合 (申請全体)		重点事項の 採択割合 (交付決定/申請)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数 (c/a)	金額 (d/b)	件数 (c/a)	金額 (d/b)
H15	173	—	93	—	53.8%	36.1%	—	—
H16	198	(35)	108	(28)	54.5%	27.6%	80.0%	52.5%
H17	189	(29)	73	(15)	38.6%	23.1%	51.7%	30.2%
H18	252	(70)	92	(28)	36.5%	19.5%	40.0%	26.6%
H19	192	(68)	75	(50)	39.1%	19.1%	73.5%	38.3%
H20	161	(93)	77	(55)	47.8%	23.4%	59.1%	34.1%
H21	127	(72)	61	(41)	48.0%	25.2%	56.9%	33.4%
H22	156	(74)	55	(33)	35.3%	18.3%	44.6%	21.8%
合計	1,448	(441)	634	(250)	43.8%	24.3%	56.7%	31.9%

(注) 各事業年度の数値は当初交付決定時のもの

()の数字は内書きで、助成重点事項に該当する数値

○ 万博公園賑わい創出支援事業

イ 公園事業と基金事業との連携

平成 18 年度助成事業から、公園事業と基金事業との連携をより深め、相乗効果を増大させる取組みとして、「万博公園賑わい創出支援事業」を創設した。

さらに、平成 19 年度助成事業からは、助成限度額を 1 件あたり 5,000 千円(18 年度 3,000 千円)に引き上げ、助成予算を 50,000 千円(18 年度 15,000 千円)に拡充するとともに、国内各地

において開催する万博当時の展示品の展示会等の事業を助成対象に加えるなど、事業メニューも充実することとした。

平成 21 年度は、万博公園の自然の中でモンゴルの遊牧民の伝統的住居「ゲル」の組立解体体験を行う「モンゴル in 万博」や万博公園内で次世代を担う子どもたちに理科の面白さと考えることの大切さを伝えるため、水ロケットの発射などの理科実験を行う「理科実験野外教室」等に対して助成を行った。(詳細についてはハに記載の実績表のとおり)。

ロ 平成 21 年度万博公園賑わい創出支援事業の追加募集

平成 21 年度万博公園賑わい創出支援事業(予算：5,000 万円)については、審査の結果、採択金額が 4,000 万円となったことから発生した予算残額 1,000 万円を有効に活用するため、万博公園で冬季(11 月～3 月)に実施される事業、次世代育成に資する事業に限定して追加募集を行った。

・受付期間 6 月 1 日～30 日

申請及び交付決定の件数・金額は次のとおり。

	申 請	交付決定
件 数	4 件	2 件
金 額	7,725 千円	3,691 千円

ハ 平成 21 年度実績(辞退 1 件を除く)

	事 業 名	事 業 概 要	確定額等	入園者数等
	事業者名(役職名・代表者名)		(千円)	(人)
1	万博記念公園における統合医療によるストレス軽減および認知症の予防	認知症の発症予防を目的として、公園内施設と連携を図りながら、軽度認知障害等のある者に対して、継続的な統合医療のメニューや月 1 回の公園の森林内でのウォーキング等を実施した。	1,677	— (参加者数 45)
	有限会社 統合医療企画	【会 場】 万博記念公園		
	(代表取締役社長)持田堅司	【実施期間】 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日		
2	万博公園学習イベント「平成の伊能忠敬になろう」	万博記念公園を学習の場として、子どもたちに最新技術に触れることによりコンピュータの利用に興味をもってもらうことを目的に、コンピュータ上に 3D(次元)データ映像を正確に重ね合わせて表示する技術を応用し、太陽の塔のいろいろな部分を計測して図面を作成してもらいイベントを実施した。	2,800	17,684
	特定非営利活動法人 ウェアラブルコンピュータ研究開発機構	【会 場】 万博記念公園		
	(理事長)塚本昌彦	【実施期間】 平成 21 年 5 月 5 日		
3	プラスエキスポ '09	関西吹奏楽連盟加盟団体が、コンサート、マーチング、パレードなど、国内外で類例を見ない多彩なパフォーマンスを展開する関西を代表する吹奏楽のビッグイベントを実施した。	5,000	20,941
	関西吹奏楽連盟	【会 場】 万博記念公園		
	(理事長)丸谷明夫	【実施期間】 平成 21 年 5 月 10 日		

4	企画展「チベット ポン教の神がみ」	他国文化を正確に理解し自国文化を他民族に説明し理解してもらう能力を養う機会を提供するため、国立民族学博物館と協同で、実際の民族学標本資料を展示する展覧会（チベット地域を中心に南アジアに分布しているボン教に関する文化を紹介）を開催した。併せて、展示内容の理解を促進するために解説書（図録）を作成した。	2,500	— (入館者数 45,356)
	財団法人 千里文化財団 (理事長)小林庄一郎	【会 場】 国立民族学博物館 【実施期間】 平成 21 年 4 月 23 日～7 月 21 日		
5	「茶と美—柳宗悦・茶を想う」の記念講演会、秋季特別展「民藝運動の巨匠たち～濱田・河井・芹沢」及び記念講演会	民芸運動の巨匠の濱田、河井、芹沢の三氏についての記念講演会を実施した。	700	— (参加者数 74)
	財団法人 大阪日本民芸館 (理事長)岡田信吾	【会 場】 大阪府立国際児童文学館 【実施期間】 平成 21 年 5 月 17 日・9 月 12 日～12 月 13 日		
6	モンゴル in 万博	他国における環境への考え方を理解する機会を提供するため、モンゴルの遊牧民の伝統的な生き方を紹介するイベント(遊牧民の伝統的住居である「ゲル」の組立解体体験や研究者の講演会など)を開催した。	2,500	15,219 (参加者数 1,900)
	財団法人 千里文化財団 (理事長)小林庄一郎	【会 場】 万博記念公園・国立民族学博物館 【実施期間】 平成 21 年 8 月 8～9 日・9 月 22～23 日		
7	「こころの再生」フェスタ inEXPO	家族のつながりや子どもと向き合うことの大切さなどを体感する機会を創出するため、「こころの再生」府民運動の最大のフェスティバルとして、親子クッキング教室や観客参加型ステージイベントなどを開催した。	554	22,226
	「こころの再生」府民運動・企画運営委員会 (委員長)向井正博	【会 場】 万博記念公園・生活誕生館ディリバ 【実施期間】 平成 21 年 11 月 7 日～11 月 8 日		
8	環境 EXPO2009「万博公園エコラリー」～親子で地球にいいこと体験～Kids Eco Market(キッズ エコマーケット)	環境と資源の大切さをテーマに、ゴミを使い燃料にする実験などを通じて環境の取組を理解してもらいイベントや、資源の大切さ、働くことの大切さなどを認識してもらう目的で、子どもたちによるガレージセールを実施した。	1,500	31,561
	世界の民族音楽&スポーツ体験フェスタ実行委員会 (会長)田中康雄	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成 21 年 5 月 4 日～5 月 5 日		
9	子どもにスポーツと健康を！「エンジョイ スポーツアカデミー」	「子どもにスポーツと健康」をテーマに、子どもたちの運動能力向上などを目的に、プロスポーツ選手による競技指導を実施した。	1,500	12,899
	株式会社 産業経済新聞社 (営業局長)田中康雄	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成 21 年 11 月 8 日		
10	円座(茶室)で茶の湯と「ものづくり」を楽しもう in 万博公園	「千家十職×みんなく：茶の湯のものづくりと世界のわざ」展開連事業として、新しい茶室を創造し茶の湯を通して交流する機会を提供し、学生や在日外国人の方々に茶の湯の製作過程から積極的に参加していただき、国際交流や文化交流ができる事業を実施した。	800	— (参加者数 250)
	国立民族学博物館 (館長)須藤健一	【会 場】 国立民族学博物館前 【実施期間】 平成 21 年 4 月 21 日～6 月 30 日		

11	日露交歓コンサート 2009(万博会場)	クラシック音楽の普及・ファン拡大を通じて、国際親善、社会福祉、地域創生などに寄与することを目的に、海外の一流アーティストを招聘し、無料で誰もが気軽に参加できるクラシックコンサートを開催した。	2,300	23,191 (参加者数 600)
	社団法人 国際音楽交流協会 (理事長)指宿修子	【会 場】 万博記念公園・生活誕生館ディリバ 【実施期間】 平成21年9月20日～9月21日		
12	Summer ロハスフェスタ in 万博公園	環境保全を啓発する参加型イベントとして、大学生を対象とした廃油回収活動などの教育研修プログラムを実施した。	2,000	9,686
	株式会社 シティライフ NEW (代表取締役)池谷綱記	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成21年8月8日～8月9日		
13	ロハスフェスタ in 万博公園	環境保全活動を行っているNPO法人との協働で、木質バイオマスを活用するなどの環境保全を啓発する参加型イベントを実施した。	2,500	24,638
	株式会社 シティライフ NEW (代表取締役)池谷綱記	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成21年10月7日～10月13日		
14	日蘭通商 400周年記念事業 日本オランダ年 2009 親善イ ベント	日蘭貿易が開始されてから400周年を機に、オランダ総領事館と連携して、「万博チューリップフェスタ」の開催時期に、オランダ王国との親善イベント(ミッフィーの着ぐるみショー・オランダの青空市・ネオンアート展など)を開催した。	5,000	184,640
	株式会社 フリーマーケット 社 (代表取締役)浅野秀弥	【会 場】 万博記念公園・ホテル阪急エキスポパーク他 【実施期間】 平成21年4月11日～4月29日		
15	ワールド“ECO”キャンパス in2010	世界7カ国11名の若者が、地域コミュニティや大学生などと協力し、環境についての考え国際理解を深めるイベントを実施した。	826	71,283
	特定非営利活動法人 ワールド キャンパスインターナシ ョナルインコーポレーテ ィッド (理事長)西村紀公	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成22年3月14日		
16	万博公園で子どもの本の世 界を楽しもう	子どもの本へのアプローチとして「なつかしさ」「地域性」「親しみやすさ」の柱を立て、児童文学館所蔵の資料展示、廃品を使った子どもフェスタや「大阪発、子どもの文化」というテーマで子ども向け落語会などを開催した。	1,038	— (参加者数 16,287)
	財団法人 大阪国際児童文学 館 (理事長)松居直	【会 場】 大阪府立国際児童文学館 【実施期間】 平成21年5月1日～12月27日		
17	理科実験野外教室	次世代を担う若者たちに理科の面白さと思考することの大切さを養わせること等を目的に、水ロケットの発射、化学反応、地球の温度などの理科実験を開催した。	466	37,241
	科学の祭典実行委員会野外 実験班 (大阪市立科学館事業担当課 長)斎藤吉彦	【会 場】 万博記念公園 【実施期間】 平成21年11月15日		

18	新体力テスト&万博エクスポート	体力等の向上に資する具現化された活動として、万博記念公園の自然物素材を活用した、参加者を対象に体力・運動能力・運動習慣等調査と生涯スポーツ体験活動をプログラム化したイベントを開催した。 【会場】 万博記念公園 【実施期間】 平成21年11月2日～平成22年3月31日	3,225 (当初交付決定額)	— (参加者数6,463)
	特定非営利活動法人 インクルージョンプログラムラボラトリ			
	(理事長)逸見祐司			
合 計 18件			36,886	510,575 (70,975)

ニ 平成22年度万博公園賑わい創出支援事業

- ・受付期間 9月1日～9月30日(当日消印有効)

- ・申請件数 12件
- ・申請金額 38,484千円

申請実績については、昨年度(件数27件 金額88,467千円)を下回ることとなった。この理由としては、万博公園に賑わいをもたらすという事業の性質から、イベントに関連する事業が多く、最近の経済情勢の悪化のため、事業者の資金不足により、イベント関連の事業の実施が困難となり、申請件数・金額が減少した一因であると考えられる。

万博公園賑わい創出支援事業の状況

単位：件、千円

年度	申請		交付決定		採択割合 (申請全体)	
	件数(a)	金額(b)	件数(c)	金額(d)	件数(c/a)	金額(d/b)
H18	11	13,388	11	13,357	100.0%	99.8%
H19	16	54,751	15	50,197	93.8%	91.7%
H20	13	50,886	13	48,506	100.0%	95.3%
H21	27	88,467	19	43,691	70.4%	49.4%
H22	12	38,484	11	36,800	91.7%	95.6%
合計	79	245,976	69	192,551	87.3%	78.3%

ホ 平成22年度万博公園賑わい創出支援事業の追加募集

当事業については、予算額(50,000千円)に対し交付決定額が36,800千円となったため、残額13,000千円について、追加募集を実施することとし、下記のとおり周知活動を行った。

- ・募集要項及び申請書を機構ホームページへの掲載(平成22年3月1日)
- ・報道資料提供 府政記者クラブ、吹田記者クラブ、豊中記者クラブ(平成22年3月1日)
- ・周知依頼

万博公園に賑わいをもたらす事業を対象に効果的な周知を行うため、地域性を考慮して京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市(国際交流・文化・NPO担当部局及び教育委員会)(平成22年3月1日)、及び大阪市内の各区のコミュニティ協会(24団体)に周知依頼を行った(平成22年3月26日)。

また、下表の自治体のNPO担当課、国際交流、文化関係課及びその関係団体等に赴き、傘下団体等に22年度賑わい創出支援事業の追加募集の周知依頼を実施した。あわせて、万博基金事業全体についても周知依頼を行った(平成22年3月3日～19日)。

自治体名	訪 問 先
吹田市	NPO 担当課
茨木市	NPO 担当課
池田市	NPO・国際交流担当課
豊中市	NPO 担当課
箕面市	NPO 担当課・NPO 活動センター
摂津市	NPO 担当課
高槻市	NPO サポートセンター
大阪市関係	NPO センター・ボランティア情報センター・国際交流センター・文化担当課
大阪府関係	(社福)大阪ボランティア協会・府文化団体連合会
その他	関西国際交流団体協議会

○ 補欠事業

平成 17 年度事業から創設した「補欠事業制度」により、平成 21 年度は、4 事業(助成額 7,400 千円)を追加採択し、交付決定後の辞退等により生じる財源の有効活用を図り、効果的な助成金の交付に努めた。また、平成 22 年度の補欠事業 9 件 17,500 千円を選定した。

平成 21 年度助成金 補欠繰上げ交付決定状況 (単位：件、千円)

事業区分	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	4	7,400
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	3	5,400
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	1	2,000
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	0	0
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	0	0
合 計	4	7,400

平成 22 年度助成金 補欠事業選定状況 (単位：件、千円)

事業区分	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	9	17,500
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	3	7,300
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	6	10,200
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動	0	0
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	0	0
合 計	9	17,500

② 助成対象事業についての事後評価の実施

○ 事後評価の概要

個々の助成事業が、的確かつ効果的に実施されたか、また、どのような事業成果、波及効果があったかを確認・検証し、今後の事業改善に反映させていくため、平成 19 年度助成事業から、基金事業審査会の委員の意見も踏まえ事後評価を実施している。

平成 21 年度は、平成 20 年度の繰越分及び当年度助成事業の事後評価を実施した。

(実施要綱)

- ① 評価者：(独)日本万国博覧会記念機構
- ② 対象：すべての助成事業
- ③ 評価時期：個々の事業について、完了実績報告書(助成事業の実施内容及び成果に関する報告書)の提出後に行う。
- ④ 評価項目：事業形態によって異なる評価シートを作成
(事業の総括、事業の実施状況、参加者等の意見の把握、支出における経費区分、広報計画など)
- ⑤ 評価方法：完了実績報告書及び機構自らが実地調査した結果に基づいて、上記評価項目について、5 段階による採点を行い、これを集計したものを総合評価とした。

○ 平成 20 年度助成事業の評価結果(評価対象事業：93 件)

評価結果	件数
期待水準を超えて極めて良好な事業	2 件
期待水準を超えて良好な事業	10 件
期待水準を十分満たした事業	69 件
期待水準に比べてやや順調でないと考えられる事業	12 件
期待水準に比べて順調でないと考えられる事業	0 件

・評価結果の分析

期待水準に達している事業が 81 件ののぼり、助成事業は概ね適切に実施されているものと分析している。

【評価が得られた内容】

- ・論文集の発行、WEB サイトの充実、一般市民を対象にした公開講座や見学ツアー及び展示会の実施などにより、事業の成果を積極的に社会に発信している。
- ・青少年を主な対象にした市民公開講座の実施、若手研究者の国際会議への参加支援など次世代を担う人材の育成に積極的に取り組んでいる。
- ・参加者へのアンケートを実施し、批判的な意見も含めて紹介するとともに、集計内容を詳細に分析している。また、参加者の満足度も高い。

【評価が得られなかった内容】

- ・申請時の計画と比べ、事業実施時の方が、参加者、参加国数が減少している。
 - ・手引書に記載しているにもかかわらず、報告書及び領収書等の添付書類の補正が多い。
 - ・申請時の計画と比べ、「万博表示」の印刷媒体等が少なくなっている。
- ※ 当初計画よりも参加者が減少した事業については、完了実績報告書にその理由を記載することを事業者に求めている。

また、報告書や添付書類の誤記や不備については、それらの審査時に事業者に修正等の指示を行っている。

さらに、印刷物等に万博表示を行うことを計画していたにもかかわらず、万博表示を行わなかった場合は、印刷に係る経費を助成対象外として減額した上で、助成金を交付している。

○ 評価結果等の公表

当機構で実施している事後評価制度の概要、評価方法及び項目並びに平成 19 年度助成事業評価結果(期待水準を基にした評価件数、評価結果の分析)及び評価の高い事業を当機構のホームページに掲載した。併せて評価結果については「公園だより」9月号に掲載した。

また、「公園だより」(6月号、7月号、2月号)には、期待水準に達していた助成事業の中から選考して、評価の高い事業を掲載した。

○ 平成 22 年度募集要項への評価結果の反映

平成 22 年度助成事業の募集要項には、事後評価についての項目を設け、引き続き実施する旨を申請者にわかりやすく記載するとともに、事後評価の情報を掲載している当機構のホームページのアドレスを併せて記載し、申請者の参考となるようにした。

また、引き続き同要項には、これまでに実施した事後評価結果をふまえ、ホームページによる紹介、市民公開講座の実施などにより助成事業の成果を発信している場合は評価項目の一つとすることを記載した。

○ 平成 22 年度助成事業審査への評価結果の活用

平成 22 年度助成事業の申請のうち、現中期計画期間である平成 20 年度及び平成 21 年度に事後評価がなされた助成事業者からの申請については、その評価結果を選考の評価項目とした。

○ 審査会での意見聴取

事後評価の実施状況及び評価結果の活用方策について報告を行うとともに、評価についての意見を聴取した。

【報告概要】

- ・平成 19 年度助成事業の評価結果
- ・平成 20 年度及び平成 21 年度の助成事業(10 月 14 日現在)の実施状況
- ・評価方法、評価結果の高い事業又は期待された評価水準に達していない事業の特色
- ・評価結果の活用方策(22 年度助成事業への反映など)

【審査委員からの意見】

- ・環境に係る事業については、事業実施により環境問題にどのような効果が得られたかを報告させること。
- ・事後評価については、外部からの評価をいただくなど、工夫を図りたい。

【意見に基づく改善事項】

平成 22 年度助成事業から環境との関連での成果を助成事業者具体的に検討させ、その成果を完了実績報告書に具体的に記述するよう求めることとし、助成事業者に配布する手引書にこの旨を記載し、徹底を行った。

○ 他の助成団体の調査

万博記念基金事業や事後評価の改善の参考とするため、幅広い助成事業を実施している類似の団体に赴き、同団体の助成制度や事後評価についてのヒアリング調査を行った(平成 21 年 12 月 25 日)。

【主な内容】

- ・担当部署(職員数 50 名)が、採択したすべての事業(平成 19 年度助成事業: 3,475 事業、助成総額: 252 億円)について、その達成状況の確認(当機構の事後評価に相当)を行っている。
- ・前年度に実施した事業の中から選定した事業について、現地調査など内容面を含めた評価を実施している。平成 20 年度は、18 件の事業(平成 19 年度助成事業)について実施し、うち 10 件を外部の民間法人に委託し、事後評価を行った。

- ・当財団の事後評価の特徴は、評価にコストと時間をかけていることと考えている。
- 検討課題及びこれに対する改善

評価の基となる完了実績報告書及びその添付書類(収支決算表、領収書、請求書)の不備や補正が多いことから、提出書類の作成や助成対象費目について解説を基金事業のホームページ(よくある質問)に掲載した。

また、「公園だより」(6月号、7月号、2月号)には、期待水準に達していた助成事業の中から選考して、万博基金の助成事業としてふさわしい事業を掲載し、PRを図った。

さらに、上記のヒアリングを行った助成団体の事後評価の実施状況を参考にして、事後評価の精度をさらに高めるために、平成22年度は実地調査の件数を平成21年度実績の17件から24件程度に増加する予定である。

今後も、他の助成団体の事例も参考にしながら、事後評価結果を事業全体の改善に反映する方策の検討を進めていく。

③ 助成金の交付にかかる選考手続き等における客観性及び透明性の確保

■ 基金事業審査会

○ 基金事業審査会の概要

基金事業審査会は、助成金交付事業の適正な運営及び助成対象事業の公正な選考を行うために設置している。助成分野にかかる事業をさらに専門的な見地から審査するため、審査会に専門部会を設置し、審査会は、専門部会における審査結果を踏まえ、総合調整を行った上で採択案をまとめ、機構に答申することとしている。(委員については、別紙1のとおり)

また、助成重点事項、採択基準、助成金の交付に関する重要事項について意見を聴取することとしている。

○ 委員の選定方針

基金事業審査会の委員の選定については、審査会の運営方法をより明確化するため、国の「審議会等の運営に関する指針」を参考に制定した「基金事業審査会委員選定に関する指針」(平成18年10月1日実施)において、委員の任期(2期4年まで)、女性委員の比率(30%以上)などを規定している。

○ 平成21年度万博公園賑わい創出支援事業追加募集の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業について、専門的な見地から審査するため、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した(平成21年7月9日)。審査結果は下記のとおりである。

【専門部会審査状況】

部会名	開催日時	申 請		採 択	
		件数	金額	件数	金額
国際相互理解・文化活動部会	8月24日(月) 午後3時~5時	4件	7,725千円	2件	3,691千円

ロ 第17回基金事業審査会の開催

本案件の部会審査の結果を踏まえ、公正な選考を行うため、第17回基金事業審査会を持回りにて開催し、委員の了承を得たため、平成21年9月25日に助成金の交付決定を行った。

○ 平成22年度助成金交付事業の審査

イ 専門部会での審査

申請された事業を専門的な見地から審査するため、一般助成事業の審査を基金事業審査会専門部会に依頼した(平成21年10月30日~11月2日)。また、万博公園賑わい創出支援事業に

については、国際相互理解・文化活動部会に審査を依頼した(平成 21 年 11 月 2 日)。

【専門部会審査状況】

金額：千円

	開催日時	申請 件数	申請額	審査 件数	精査後 限度額	採択 件数	採択金額
環境第 1 部会	12/1(火) 10:00~12:00	37	174,799	33	152,995	16	35,300
環境第 2 部会	12/14(月) 10:00~12:00	37	252,335	35	202,562	17	58,000
国際相互理解 文化活動部会 (賑わい創出支 援事業)	12/21(月) 15:30~18:00	82	348,485	75	273,884	22	48,400
		12	38,484	11	37,146	11	36,800
合計		168	814,103	154	666,587	66	178,500 一般助成 (141,700) 環境関係 (93,300)

()は内数

ロ 第 18 回基金事業審査会(平成 22 年 1 月 25 日開催)

平成 22 年度助成事業の選考にかかる各専門部会の審査結果の報告を踏まえ、審査会において助成事業が答申された。また、万博公園賑わい創出支援事業については、13,000 千円の予算残額が発生したため、この有効活用を図るため、追加募集を行うこととなった。併せて、平成 23 年度助成事業の募集についての意見聴取を行ったほか、助成事業における事後評価の実施結果について報告を行った。

【議事要旨(平成 22 年 3 月 5 日 ホームページ掲載)】

(1)助成事業の選考

平成 22 年度日本万国博覧会記念基金事業採択案の決定及び補欠事業の選定について
平成 22 年度日本万博公園賑わい創出支援事業採択案の決定について

①事務局説明

○募集から専門部会の審査状況までの経過を説明

②各専門部会からの審査結果報告

○選考にあたっては、各部会委員の総合評価(配分：A30% B30% C40%)を、A5 点、B3 点、C1 点と換算して、その合計額を点数化したものを評価結果とし、協議を行った。

○より多くの事業を支援するため、点数に応じて充足率(100%~概ね 50%)を設け、以下、点数に応じて充足率を乗じて、助成にふさわしい事業として順位を決定した。

○22 年度の予算額が、募集要項に記載の助成予定金額よりも増額されることを見込んで、採択事業、採択金額(補欠事業含む)を決定した。

○評価が下位の事業であっても、委員の専門的知見から助成事業にふさわしい事業であれば採択を行った。

○専門部会内定状況

(一般助成事業)

採 択 55 件 1 億 4,170 万円、補 欠 9 件 1,750 万円

(万博公園賑わい創出支援事業)

採 択 11 件 3,680 万円

③助成事業の採択結果

専門部会での審査状況を尊重し、部会内定の事業を全て採択することとした。

(一般助成事業)

採 択 55 件 1 億 4,170 万円、補 欠 9 件 1,750 万円

(万博公園賑わい創出支援事業)

採 択 11 件 3,680 万円

万博公園賑わい創出支援事業の予算残額(1,300 万円)は、追加募集を行うことが提案された。

④質疑応答等

○総合評価の方法について

評価項目の記載内容をわかりやすく整理されたい。また、今回の配点では同点の評価結果が多くなる。より評価がしやすい選考が行えるような評価方法を検討されたい。

(2)意見聴取事項

今後の万博基金助成事業について

①事務局説明

○次期中期計画に向けての助成対象の重点化項目の方向性、賑わい助成事業、広報活動及び事後評価のあり方を説明

②主な意見

○重点化項目は、二酸化炭素 25%削減や東アジアの関係改善に資する事業など、インパクトのあるものにしなければならない。

○万博基金から助成を受けたことを表示することをさらに徹底させることはよいこと。このことは国外の事業では特に必要である。

○万博のことは知っていても、基金をもって様々な助成を行っていることを知っている一般の人は少ないので、万博機構が基金の果実をもって社会に貢献していることの PR に工夫(顕彰制度等)が必要である。

○事後評価については、外部からの評価をいただくなど、工夫を図られたい。

○万博公園賑わい創出支援事業については、助成率を上げるなど小規模な団体が申請しやすいような工夫が必要である。

(3)報告事項

助成事業における事後評価の実施結果について

平成 21 年度補欠事業の採択状況について

平成 22 年度助成金当初交付決定状況

(単位：件、千円)

事業区分	国内事業		国外事業		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	39 (26)	84,600 (55,000)	14 (7)	56,100 (38,300)	53 (33)	140,700 (93,300)
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	5 (4)	12,700 (11,500)	12 (5)	48,800 (31,000)	17 (9)	61,500 (42,500)
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	24 (12)	53,300 (24,900)	— (—)	— (—)	24 (12)	53,300 (24,900)
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	10 (10)	18,600 (18,600)	2 (2)	7,300 (7,300)	12 (12)	25,900 (25,900)
万博の成功を記念するにふさわしい文化的活動	2 (—)	1,000 (—)	— (—)	— (—)	2 (—)	1,000 (0)
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	0 (0)	0 (0)
芸術及び地域文化に関する活動	2 (—)	1,000 (—)	— (—)	— (—)	2 (0)	1,000 (0)
合計	41 (26)	85,600 (55,000)	14 (7)	56,100 (38,300)	55 (33)	141,700 (93,300)

(注) 下段()の数字は重点事項に該当

平成 22 年度助成金当初交付決定状況(賑わい創出支援事業)

(単位：件、千円)

事業区分	件数	金額
国際相互理解の促進に資する活動	4	12,900
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	2	6,500
学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動	2	6,400
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動	0	0
万博の成功を記念するにふさわしい文化的活動	7	23,900
日本の伝統文化の伝承及び振興活動	0	0
芸術及び地域文化に関する活動	7	23,900
合計	11	36,800

(注) 万博公園賑わい創出支援事業は全件重点事項に該当

■ 申請者の利便性の向上

○ 平成 22 年度募集要項の改善

平成 22 年度の募集にあたり、助成事業の条件や対象となる費目などを記載している募集要項に、助成金交付申請の記載例をまとめた申請書類記入要領を合冊し、申請者の利便性の向上に努めた。

○ 助成申請手続き等の公開

平成 22 年度助成事業の募集に当たって、助成対象の重点化や申請手続き等を次のとおり明確にした。

- ・ 募集要項及び申請書の機構ホームページでの公開及び官報公告(平成 21 年 7 月 1 日)
- ・ 公募案内及び基金事業の周知依頼

- イ 吹田記者クラブ、豊中記者クラブ、大阪府政記者クラブに資料提供(平成 21 年 7 月 1 日)
- ロ 関係機関(合計 525 団体)への周知依頼(平成 21 年 7 月 6 日)
 - これまでの文化庁、内閣府、環境省等 397 団体の他、今年度は新たに各都道府県の教育委員会、政令指定都市(国際交流・文化・NPO 担当・環境政策担当部局・教育委員会)、日本エネルギー学会、NPO サポートセンターなど(128 団体)を追加。
- ・関係機関のホームページへの情報掲載及びリンクの設定
 - 公募案内及び基金事業の周知依頼先のうち、自治体、大学、学会、その他関係機関など 70 団体のホームページに掲載された。
- 平成 22 年度募集に係る説明会の開催
 - 平成 22 年度の助成事業の募集にあたり、募集要項の内容や申請書の記入方法、審査のポイントなどをわかりやすく説明するため、平成 21 年度から新たに説明会を開催した。
 - 【開催結果】**
 - イ 日 時：平成 21 年 9 月 7 日(月) 午後 2 時～3 時
参加人数：12 団体 20 名
 - ロ 日 時：平成 21 年 9 月 8 日(火) 午後 2 時～3 時
参加人数：14 団体 18 名
- 助成金の交付状況等の公開
 - 申請に際して事業者の参考となるよう、基金事業審査会及び専門部会の委員名簿等をはじめ、平成 22 年度助成事業の交付決定状況をホームページで公開(平成 22 年 2 月 22 日)するとともに、交付実績については、事業の完了時期に合わせて順次公開した。
- 国内事業の実地調査
 - 提出書類からの事業内容の確認のみならず、「環境・公園」に関係する事業を中心に、事業形態、事業実施地域などを考慮の上、当初10件の調査先を選定したが、助成事業の成果等の確認や助成事業者の要望や意見を的確に把握するため、さらに7件の調査先を追加(合計17事業)し、調査の充実を図った。
 - この調査では、助成金の使途、事業実施状況、助成事業の成果、看板・ポスターや冊子等に万博基金からの助成であることの明示状況等の確認を行うとともに、事業の改善を図るため、事業者から万博基金からの助成によって事業内容が充実した事項や基金事業に対する要望・意見を聴取した。
 - また、助成事業者に対しても、当該事業が万博基金の助成を受けて実施されていることを社会に発信していただくよう働きかけ、理解を求めた。

○ 国外事業の現地調査

国内事業のみならず、助成事業による取得財産の活用状況、事業の成果等を把握するため、高麗大学校(韓国)に赴いて、調査を行った。結果は下表のとおり。

事業者名	事業名	調査実施日	調査の実施状況
高麗大学校日語 日文学科	①平成 18 年度事業：高麗大学〈日本文化〉〈日本古典翻訳〉叢書刊行事業 ②平成 21 年度事業：高麗大学日本研究センター「日本学叢書」「日本古典翻訳叢書」「現代日本叢書」刊行事業	11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・本叢書の刊行によって、日本に対する体系的な理解を文化と学術の両面から深く広めることができた。 ・日本文化に対する誤った知識を是正し、今後の日韓両国の望ましい関係の基礎づくりに貢献できた。 ・万博表示については、日本研究センター情報資料館の入口に万博基金の助成によるものであること、また各書籍の奥付にも表示している。

○ 国外事業者への現況調査の実施

平成 18 年度から平成 20 年度にかけて国外事業者が実施した事業のうち、財産を取得した事業(施設の整備、日本語教育用機材購入等)について、財産及びそれらに附された万博表示の現況を把握するため、在外公館を通じて助成事業者へ現況調査を行うこととし、外務省文化交流部に在外公館への照会、取りまとめを依頼した。また、国外事業のこれまでの交付実績も提出した(平成 22 年 3 月 26 日)。

平成 18 年度：8 事業 平成 19 年度：3 事業 平成 20 年度：5 事業
合計：16 事業

■ 万博表示の実施及び基金事業の社会への普及・浸透

○ 万博表示の実施

平成 22 年度助成事業募集要項に、助成事業を受けて作成した成果品(図書等)、ホームページ、ポスター、プログラム、看板などを作成する場合は助成金を受けている旨の表示が必要なことを明確に記載した。

併せて、引き続き表示例を掲載し、これを当機構ホームページからダウンロードできるようにしているとともに、この万博表示の徹底を図るため、申請書の万博表示の印刷物等の記載欄を媒体ごとに作成数を記載するように改めた。

【表示例】



助成 独立行政法人日本万国博覧会記念機構
Supported by the Commemorative Organization for the Japan World Exposition('70).



2010 年
日本万国博覧会
開催 40 周年

また、平成 22 年度助成事業から、万博表示の徹底を図るため、日本万国博覧会記念基金交付規程を改正し、正当な理由なく広報物や成果物等に万博表示を行わなかった助成事業者については、助成金を減額することとした。

○ 基金事業の社会への浸透

- ・「基金事業ニュース」の掲載

基金事業の社会への周知を図るため、機構ホームページの「基金事業ニュース」に、マスコミで取り上げられた事業等の紹介などを掲載した。

さらに、万博基金事業の PR を行うとともに、事業者の広報活動を支援するため、「一般公開の講座・公演・展示案内」の欄に助成事業の成果を社会に発信する取組として「市民公開講座」や展示会などの開催時期、会場などの情報を 16 件掲載した(平成 20 年度実績 11 件)。

○ 「万博公園だより」の活用

当機構が毎月発行している「万博公園だより」に、平成 21 年度に新たに基金事業を紹介する紙面を定期的(年 4 回)に確保し、助成事業者の協力も得ながら、基金事業の概要、社会的に注目を集めた事業、助成金交付について寄せられた謝辞、平成 22 年度募集の情報など掲載し、全国の大学や助成事業者に配布した。

号数	掲載内容
4 月号	平成 21 年度助成事業の交付決定事業の例の紹介
5 月号	平成 20 年度助成事業「日本「匠」センター」の整備の紹介、 平成 21 年度助成事業の一部の紹介
6 月号	万博記念基金事業の紹介 平成 20 年度助成事業者からの感謝の声の紹介(第 7 回人間開発グローバル会議) 平成 20 年度助成事業の紹介(大阪国際人形劇フェスティバル) 賑わい創出支援事業の追加募集
7 月号	平成 20 年度助成事業者からの感謝の声の紹介(第 1 回斜面防災フォーラム) 平成 20 年度助成事業の紹介(日本伝統建築物組立再建事業・郡山民俗芸能大会) 賑わい創出支援事業の追加募集
8 月号	平成 22 年度助成事業の募集受付
9 月号	平成 22 年度助成事業の募集受付 平成 19 年度事後評価の実施結果
10 月号	平成 22 年度助成事業の募集受付
2 月号	賑わい創出記念事業の紹介 平成 21 年度助成事業者からの感謝の声の紹介(地盤災害のための予測及びシミュレーション法に関する国際シンポジウム) 平成 22 年度助成事業の申請状況
4 月号	平成 22 年度賑わい創出支援事業の追加募集

- ・ 基金による助成制度の概要とその意義等を広く社会に周知するため、ホームページでの PR や情報公開とともに、助成を受けた事業者に対して、基金の助成を受けていることが第三者にわかるような措置をとることを、助成金の交付条件として義務づけ、また、その事業者がホームページを開設している場合には、機構ホームページへのリンクを設定するよう要請し、全事業者がリンク設定していることを確認した。

ホームページへのリンク設定状況

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
助成事業者	94	93	76
うちホームページを開設している事業者	70	61	59
うちリンク設定している事業者	70	61	59

※助成事業数は、辞退、補欠からの繰上げ採択を反映した数

- ・ 選考に当たっての評価の実施
助成事業の成果を発信している場合(ホームページによる紹介、市民公開講座の実施など)は、選考に当たっての評価項目とした。

④ 民間の知見の活用

- 基金事業審査会での意見聴取
助成金交付事業の適正な運営及び助成対象事業の公正な選考を行うため、外部の有識者、公益法人の代表者などからなる基金事業審査会を設置している。また、理事長からの求めに応じて、助成重点事項や助成金交付事業に関する重要事項について意見を述べることとしている。
平成 21 年度については、平成 23 年度の助成事業の募集について、第 18 回審査会(平成 22 年 1 月 25 日開催 詳細については、(2)③のとおり)で意見をいただいた。
- 他の助成団体の調査
万博記念基金事業や事後評価の改善の参考とするため、幅広い助成事業を実施している類似の団体に赴き、同団体の助成制度や事後評価についてのヒアリング調査を行った(平成 21 年 12 月 25 日)。調査内容の詳細については、(2)②のとおりである。
- 民間団体のヒアリング調査
基金事業の改善(助成割合及び助成対象費目の拡充、NPO 団体など小規模な団体への支援拡大など)にあたり、事業者の意見を的確に把握するため、NPO 法人などにヒアリング調査を実施した(平成 21 年 12 月 11 日及び 22 日)。
【主な意見】
・ 助成割合の拡充よりも国内交通費を助成対象にするなど、対象費目の拡充がありがたい。
・ 万博公園の近隣の市町村に周知依頼を行えば、関係団体に情報が流れやすい。
- 平成 22 年度助成事業者へのアンケート調査の実施
基金事業の改善のため申請者のニーズを把握することを目的に、国外事業者(24 団体)を除く、平成 22 年度助成事業に申請した団体(144 団体)に対して、採択結果の通知に併せて万博基金事業についてのアンケート用紙を同封し、調査を実施した(平成 22 年 2 月 19 日送付)。主な結果は下表のとおり。

【回答数 68 件 回答率 47.2%】

質問項目	回答内容	件数	割合
万博基金助成金はこれからも必要か (無回答 2 件)	必要である	63	92.6%
	わからない	2	2.9%
	必要ない	1	1.5%
万博助成金を申請した理由 (重複回答 1 件 無回答 2 件)	申請しやすいから	19	27.9%
	過去に採択を受けたから	14	20.6%
	万博基金しか知らないから	1	1.5%
	その他 【主な回答】 ・世界に通用するから ・万博機構が公的機関だから ・事業への信頼度が増すから等	33	48.5%
万博基金への要望・意見等	【主な回答】 ・日本での文化事業を支援されることに感謝 ・小規模な学会にも助成していただけることはありがたい ・不況により他の助成が停止されており、万博基金の存在意義は増している ・万博基金による支援は非常に信用があるので、なくなってしまうのは困る ・3 年程度の継続助成をお願いしたい ・採択件数を増やしてほしい ・大きな国際的事業から草の根的な事業まで助成してほしい ・PR に力を入れるべき 等		

※ 割合については、無回答等により、トータル 100%にならない。

○ 調査結果等の基金事業への反映

民間団体へのヒアリングで、近隣市町村を通じた周知活動が有効であるとの意見に対して、平成 22 年度万博公園賑わい創出支援事業の追加募集の実施にあたり、大阪府及び近隣市町村の NPO・文化担当課に周知依頼を行った(平成 22 年 3 月 3 日～19 日、訪問先については(2)①のとおり)。

また、平成 23 年度助成事業の募集にあたり、更なる支援の拡充に向けて検討を開始した。

さらに、ヒアリングを行った助成団体の事後評価の実施状況を参考にして、事後評価の精度をさらに高めるために、平成 22 年度は実地調査の件数を平成 21 年度実績の 17 件から 24 件程度に増やす予定である。

(3) 公園事業への繰入れの拡大

平成 21 年度は、公園の施設整備のため、基金の運用益から 50,000 千円の公園事業への繰入れを行った。

また、平成 22 年度予算でも、公園事業への繰入れとして 50,000 千円計上している。

(4) 基金の運用及び管理における客観性及び透明性の確保

① 基金の管理・運用

より効果的な運営に努め、責任体制を明確化するため、次の事項に取り組んできた。

○ 内部組織体制の整備

日本万国博覧会記念基金の管理及び運用を適正に行うとともに、責任体制を明確にするため、平成21年4月16日に開催した役員及び幹部職員による「債券運用会議」において、平成21年度における債券運用方針を決定した。

【債券運用会議の構成】

役員(理事長・理事・監事)、総務・事業部長、総務部次長、総務・経理課長

※事務局：基金課

○ 運用方針の主な項目

- ・ 予算計上額を上回る運用収入を、基金、余裕金それぞれ確保するよう努める。
- ・ キャッシュ(銀行預金を含む)保有割合は可能な限り小さくすることとし、基金、余裕金それぞれ平成20年度の水準を維持し又は下回るように努める。

(参考) キャッシュ平残数値

(単位：千円)

	基金	余裕金
平成19年度	115,818 (0.61%)	120,862 (0.54%)
平成20年度	61,882 (0.33%)	51,873 (0.23%)
平成21年度	89,981 (0.47%)	75,645 (0.34%)

○ 毎月開催の「債券運用会議」において、前月分までの運用資産明細表により、債券の償還、再運用、利金収入の状況や助成金の支払い状況等を報告した。

○ 当機構では、独立行政法人通則法第47条の規定等に基づき、国債、地方債、政府保証債、特別の法律により法人の発行する債券及びA格以上の社債のみを保有している。

万一、保有する債券の発行体の格付けがA格未満に格下げになった場合は、22年度債券運用方針に、速やかに債券運用会議に諮った上でその対応を決定する旨を定め、より安全な債券管理に努める予定である。

② 基金の管理及び運用における規程の遵守等

○ 基金の管理・運用については、独立行政法人通則法及び独立行政法人日本万国博覧会記念機構法に基づき、日本万国博覧会記念基金管理規程、日本万国博覧会記念基金及び余裕金運用規程を定めており、これに基づき適正な管理・運用に努めた。

○ また、透明性の確保の観点から、平成20年度中の基金の運用状況や運用益の使途について、平成21年9月29日にホームページで公表した。

[平成20年度]

(運用状況)

- ・ 運用収入額 331百万円
- ・ 運用資金額 18,930百万円
- ・ 平均利回り 1.75%

(運用益の使途)

- ・ 基金事業費 269百万円
- ・ その他費用 15百万円
- ・ 積立金 47百万円

3. 予算、収支計画及び資金計画

(1) 公園に関する事項

- 平成 21 年度は日本万国博覧会開催 40 周年に当たることから、その記念事業として EXPO '70 パビリオン(日本万国博覧会記念館)のオープンや 40 年ぶりとなる「太陽の塔黄金の顔 目玉点灯」などのイベント実施のほか、従来から行っている四季折々の花のイベント開催等に加え、公園のイベント紹介の情報紙を各戸配布するなど広報活動の強化を図った結果、入園者数は年度計画を上回る約 1,685 千人となった。また、スポーツ施設等の利用件数も 13,982 件と年度計画を上回った(詳細については、2. (1)①「利用者に対するサービスの向上」に記載)。

この結果、平成 21 年度の「公園入場料等収入」は、1,560 百万円となり、年度計画(1,540 百万円)に対し 20 百万円(1.3%)上回った。

これは、上記のイベント等の効果や広報活動の強化により来園者が増えたため、入場料収入が増加したほか、駐車場収入も増加したこと等によるものである。

平成 21 年度公園入場料等収入 (単位：百万円)

実績 ①	計画 ②	差(①-②)	達成率
1,560	1,540	20	101.3%

- また、平成 21 年度の実績は、中期計画の目標数値である第 1 期中期目標の実績(平成 16 年度から平成 18 年度の実績 3,809 百万円)の年度平均である 1,270 百万円を 290 百万円(22.9%)上回った。

平成 21 年度公園入場料等収入と中期計画との比較 (単位：百万円)

実績 ①	中期計画②	平均(②/3)	差(①-③)	達成率
1,560	3,809	③1,270	290	122.9%

- 平成21年度の計画に対する実績(第1号勘定と第2号勘定の合計)については、予算ベースでは収入99%、支出94%、収支ベースでは、収益104%、費用98%、当期総利益660%、資金計画ベースでは、資金収入・支出とも101%となっている。(詳細は別紙2)
- 実績の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙3)

・予算ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
収入	4,366	3,706	3,554	3,993
支出	4,020	3,331	3,388	3,597

・収支ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
収益	3,588	3,552	3,297	3,610
費用	3,335	3,401	3,201	3,365
当期総利益	307	150	96	245

・資金計画ベース

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
資金収入・支出	8,298	8,350	7,802	8,176

- 貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較(同)については、次のとおりである。(詳細は別紙4)

・貸借対照表

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
資 産	149,071	148,812	148,078	149,108
負 債	7,620	7,211	6,786	7,571
純資産	141,451	141,602	141,291	141,537

・利益の処分に関する書類

(単位：百万円)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
利益処分数額	307	150	96	245

- 第2期中期計画においては、環境・公園に関連する事業等への助成に重点化するとともに、万博記念公園の施設整備や低廉な公園入場料維持のため、公園事業への繰入れを増やすこととして、平成21年度においては50百万円の繰入れを行っている(平成20年度は15百万円)。

(2) 基金に関する事項

平成 21 年度において運用利益金の未使用分があれば、積立金として計上する予定である。

4. 短期借入金の限度額

短期借入の実績はない。

5. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

重要な財産の譲渡、処分の実績はない。

6. 剰余金の使途

第1号勘定、第2号勘定ともに剰余金の使用の実績はない。

7. その他財務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 人事に関する計画

① 職員の資質向上のための研修計画

- 策定済みの「中期研修計画」に基づき、過去に実施した研修の受講報告書等も活用して「平成21年度研修計画」を策定し、業務に関連した専門知識やノウハウの習得・向上を目的とした研修等の効率的・効果的な実施に努めた。
- 研修後に、研修目的の達成度や研修成果の業務への活用状況について受講者にヒアリングを行うなどの効果測定を実施し、研修成果を実際の業務に反映させ、業務の改善を図ることができるよう努めた。
- 職員のスキルアップによる人材育成を図るため、業務に必要な資格取得を推進しており、平成21年度は、「社会保険労務士」、「第1種衛生管理者」、「簿記検定三級」の資格を職員が取得した。
- 平成21年度の研修等の実績は次表のとおりである。

平成21年度職員研修計画の実施状況

研修項目	目的等	対象	参加人員
法規研修 (独立行政法人制度)	独立行政法人制度等に関する基礎知識を習得させる	国及び大阪府からの転入職員	6名
個人情報に関する研修	個人情報の適切な管理・取扱い等に関し、周知・徹底を図る	全職員	21名
評価者研修	人事評価制度への理解を深め、より公平な人事評価の実施と積極的な部下育成への取組を図る	課長級以上の第一次、第二次評価者	8名
経営管理(企業財務研修)	経理・会計事務等に関する知識の習得を図る	担当職員	3名
職種別研修	職種別に必要な基礎知識を習得する ・労務管理セミナー ・知的財産権研修 ・伐木等作業従事者特別教育 ・都市緑化のための土壌・農薬・病害虫対策研修 ・遊具の日常点検講習会 ・建築設備設計基準講習会 ・防災管理新規講習会 等	担当職員	16名
人権研修	人権問題についての理解を深め、人権尊重の意識の高揚を図る	役職員	26名
防災と危機管理研修	防災と危機管理について理解を深め、危機対応能力の向上を図る	役職員	11名
救急救命研修	AEDの使用方法や救急救命の手順を学び、公園内で万一の事態が発生した場合に備える	役職員	6名
資格取得	職務に活かせる資格の取得を図る ・衛生管理者養成講座 ・簿記検定試験の受験 ・社会保険労務士試験の受験	担当職員	4名
計			101名

② 人員計画

社会経済情勢が大きく変化するなか、より効率的・効果的な運営が求められる一方、利用者に対するサービスの向上や環境保全、地域社会への積極的な貢献など、国民のニーズの多様化や高度化への対応が求められている。

このような状況を踏まえ、「第2期中期目標期間における業務執行計画」に基づき、業務改善、民間知見等の活用、職員の資質向上に努めるとともに、常勤職員48名体制で独立行政法人としての健全な経営はもとより、公園事業及び基金事業をこれまで以上に着実に推進していくこととしている。

また、役職員の適正な業務の執行を確保するための内部統制システムの強化・整備を図るために制定した「内部統制基本方針」に基づき、平成22年3月にコンプライアンスに係る「行動指針」を制定した。今後、関連規程・体制の整備等を行うこととしている。

(2) 施設及び設備に関する計画

○ 公園利用者の利便性の向上、安全の確保に加えて、省資源・省エネルギー及び管理コストの軽減等のために、総額947百万円の整備工事を実施した。

主な工事の概要は次表のとおりである。

目的	工事名	概要
安全確保	万国橋耐震補強工事	千里橋、中央橋に次いで、中国自動車道・大阪中央環状線など国土交通の要衝にかかる万国橋の耐震補強工事を実施している(平成23年3月完成予定)。
	ソラード補修工事	建設後10年になる木製構造物ソラードの安全確保のための補修を実施した。
	迎賓館・記念競技場ボイラー改修工事	老朽化し、危険となったボイラーを取り替えた。
バリアフリー	万博記念競技場メインスタンド便所改修工事(その1)	老朽化した万博記念競技場のトイレを洋式便座増、ベビーベッド設置等、バリアフリーのトイレに改修した。
	鉄鋼館改修工事(その2)	EXP070パビリオンとして再生した鉄鋼館の1階と2階を結ぶエレベーターを設置した。
省資源・省エネルギー	自然文化園受変電設備改修工事	省エネルギー・設備維持・取替費用圧縮の観点から平成17年度より計画的に自然文化園の受変電設備の削減を図っている。今年度は、自然文化園西地区を施工し、2基のキュービクルを1基に統廃合した。
	太陽の塔照明器具改修工事 エキスポランド北部地域ライトアップ工事 少年球技場夜間照明設備設置工事	左記の照明器具の取替え等にあたっては、消費電力が少なく、取替の頻度も低いLED電球を採用した。

万博遺産の活用	鉄鋼館改修工事 鉄鋼館展示内容改修工事	鉄鋼館耐震補強等を内容とする鉄鋼館改修工事に引き続き、鉄鋼館をEXP070パビリオンとして再生するうえで必要な内装改修工事を実施した。
施設の機能維持	夢の池浚渫工事	アスファルト防水層の経年(40年)劣化により漏水が激しくなり水位を保てなくなった「夢の池」の防水工事を平成22年度に実施するのに先立ち、浚渫工事を実施し、引き続き調査を実施した。
地域社会の社会資本整備への対応	下水道分流化工事	吹田市の下水道工事の進捗に合わせて平成17年度から実施している公園内の下水道分流化工事を、本年度は自然文化園東部地区で実施した。

(3) 公園内の安全管理

【万博記念公園安全管理連絡会議】

- 国立民族学博物館等の公園内施設及び公園管理業務受託者と連携して公園安全管理の向上を図るため、万博記念公園安全管理連絡会議を次のとおり開催した。

開催日	内容	参加者
8月28日	① 事故・災害マニュアルの再確認及び各施設・業者従業員への周知徹底の要請 ② 食の安全・園内車両安全通行等の徹底 ③ 秋に向けての新型インフルエンザ流行への対応打ち合わせ	園内の24の施設及び管理業者が参加
3月25日	① 雷情報システム(局地的落雷情報や気象情報をリアルタイムで提供するシステム)の導入について ② 事故・災害マニュアルの再確認及び各施設・業者従業員への周知徹底の要請 ③ 食の安全・園内車両安全通行等の徹底	園内の24の施設及び管理業者が参加

- 園内施設等に対して、必要に応じて次のとおり協力要請を行った。
 - ・ゴールデンウィークを前に安全点検の徹底を要請。(4月24日)
 - ・食品の衛生管理の徹底を園内のレストラン・売店に要請。(9月12日)

【講習会・訓練等の実施】

- 安全管理に関する講習会・訓練等を次のとおり実施した。(機構職員が係わったもの)

実施日	施設名	内 容	参加者
7月15日	迎賓館	消防訓練(避難誘導訓練等) 吹田北消防署立会い	迎賓館従業員20名 機構職員2名 機構警備員3名
10月7日	記念ビル	AED講習会	業務受託者従業員11名
1月27日 1月28日	記念ビル	警備業務受託者の業務研修(現任教育)に機構職員が参加し、公園の安全管理への協力を要請した。	警備員30名 機構職員3名参加

2月3日	自然文化園	事故発生対応訓練 自然文化園内で事故発生を想定した対応訓練を、案内受付業務の受託者及び警備業務受託者と連携して実施した。	機構役職員 17名 案内受付業務受託者 7名 警備業務受託者 8名
2月25日	記念ビル	講習「防災と危機管理」(地震・豪雨) (講師：国土交通省近畿地方整備局防災対策官)	NPO 責任者 6名 機構職員 3名
3月1日	記念ビル	AED 講習会 (職員研修として未経験者対象)	機構役職員 6名 清掃業務受託者 3名
3月11日	EXPO' 70 パビリオン	消防訓練 EXPO' 70パビリオンのオープンに先立ち、館内での火災発生を想定した避難誘導訓練等を、同パビリオン管理運営受託者等と連携して実施した。	機構職員 18名 管理運営受託者 14名 警備業務受託者 6名

【企画提案の審査項目】

○ 次のような企画提案方式による受託者の決定に当たっては、安全確保・危機管理体制の確立を重要な審査項目として受託業者を決定するとともに、契約・仕様内容においても安全にかかわる条項を明確に記載した。

- ・中央駐車場等管理運営(9月1日)
- ・南駐車場等管理運営(9月1日)
- ・エキスポランド跡地一部暫定利用管理運営(10月22日)
- ・公園内周遊トレイン管理運営(1月28日)
- ・エキスポランド跡地プール暫定利用管理運営(3月25日)

【イベントの安全確認】

○ イベント規模：原則1日1万人・5日連続でかつ1日5千人を対象とした。

実施日	イベント名／形態	主な安全確認事項	対応状況
4/1	桜まつり /自主イベント	・臨時出店におけるプロパンガスの設置場所の確認 ・照明器具における配線確認	来園者の目に触れる場所に設置していたので改善を指示
4/19	ロハスフェスタ /持込イベント	・設営テントの強風対策の確認 ・来場者の誘導警備体制 ・運営マニュアルの精度確認	・テントの固定が十分でなかった ので補強措置を指示 ・中止における運営マニュアルの 適正化を指示
6/4	蛍のタベ /自主イベント	・蛍の発生場所における観賞者の将棋倒し防止 ・水路、植込み等への立ち入り 禁止柵に、寄りかかっていない かの確認	園路が混雑した場合の通行規制 や観賞者が後方から押すこと による将棋倒しを防止するための 注意喚起を行うよう園内の配置 スタッフに指示
8/8	サマーロハス /持込イベント	・会場内の電気配線状況 ・会場内の照明配置確認 ・設営テントの強風対策 ・開園時間中の車両乗入	・電気配線が芝生上に露出していた ので、養生マットを設置する旨 指示 ・開園時間中に車両移動を行って いたので注意した

8/9	ガンバ大阪ファン感謝デー /持込イベント	・お祭り広場内への設営車両乗入 ・ステージの音量	準備段階における設営車両の乗入の安全対策が不徹底のため安全対策の強化を指示した
10/11. 12	ロハスフェスタ /持込イベント	・大阪府吹田市保健所と共に、飲食出店状況の調査を行う ・会場に設置している、臨時サインの安全確認を行う ・プロパンガスの設置位置の確認	・保健所から改善指導があった品目は、次回から販売しないように、主催者に厳重注意を行った ・板面が風で揺れるため、固定するように指示した ・調理台コンロの下にプロパンガスを設置している出店者に改善を指示した
11/7・8	エコフェスタ in Expo Park /自主イベント	・大阪府吹田保健所が露天飲食物として禁止している品目の調査を行う	・保健所が禁止するカレーライスの品目があったため、販売の中止を指示した
2/6・7	雪まつり	・設営テントの強風対策の確認	・2/6(開園前)の強風で一部のテントが浮き上がったため、全テントを再確認し、オモリを追加した。

【公園施設の定期的な安全確認】

- 機構職員及び施設管理運營業務受託者が日常的に施設の安全点検を実施すると共に、4 半期ごとに報告書を作成し、事業部の部・課長に回覧し、未解決項目の対処方法を決定している。

【取組状況の公表】

- 機構ホームページの公園安全管理関係の部分を拡充するとともに、分かりやすい構成とした。(8月13日)
また、必要に応じて、随時内容を更新している。

【落雷対応策】

- 落雷発生時における来園者の安全対策を検討するにあたり、雷放電物理の研究者である大阪大学工学部大学院工学研究科の河崎教授に、雷の発生原因、どのような箇所に落雷するのか、電流の強さなど雷の特性を聴取するとともに、危険な場所・安全な避難場所の教示を得た。
- もみじ川芝生広場における野外コンサート本番中に、落雷やゲリラ豪雨が襲来した際の来場者に対する適切な安全対策を講ずるため、民間が有償で情報発信している精度の高い落雷等の予報を入手し、タイムリーな気象変動を把握するようコンサート主催者に要請した。
また、落雷等が会場近くまで襲来した際には、コンサートの中断もしくは中止の判断を主催者と機構とで協議を行い決定することとしたほか、落雷被害が少ないと思われる樹林の中の園路(中津道、西大路通り)に、来場者の一時避難誘導を行う安全対策を主催者と協議して決定した。
- 雷情報システム(局地的落雷情報や気象情報をリアルタイムで提供するシステム)を自然文化園中央口に導入し、来園者への注意喚起、屋外の催物やスポーツ競技の中止判断に役立てることとした。(3月1日から運用)

【池・流れの水質検査】

- 子どもが水に入って遊び、水を口にすると恐れがある園内の池・流れ4ヶ所で水質検査を実施した。検査は環境省の「水浴場水質判定基準」により行い、いずれの箇所も病原性大腸菌(0157)、レジオネラ菌及びフエミトロチオン(残留農薬)は検出されず、「もみじ川」「大地の池」「ひだまりの池」については「可」、「ひょうたん池」については「適」の結果を得た。(9月2日)

【事故災害への対応】

○ 新型インフルエンザへの対応

- ・5月17日に新型インフルエンザが茨木市の高校で確認されたため、大阪府の対応指針を踏まえ、自然観察学習館などの屋内施設を休館とするとともに、委託業者・ビルテナント等に感染拡大抑制のための対応を要請した。(5月18日)
- ・大阪府の新型インフルエンザ感染拡大防止のための自粛要請の解除を受けて休館施設を開館した。(5月26日)
- ・秋に向けて新型インフルエンザ拡大防止措置の周知徹底を公園内施設管理者及び業務受託業者に依頼した。(9月28日)

○ ハチの襲撃事故

- ・危険な「スズメバチ」「アシナガバチ」については、巣を発見次第撤去することとしているが、9月20日に、自然観察学習館付近の紅葉谷で来園者5名が「クロスズメバチ」の群れに襲われる事故が発生した。この事故を踏まえ、巡視の強化、来園者への注意喚起、緊急対応器具の配備などの事故防止策を強化することとした。

○ 台風対策

- ・近畿を直撃し、大きな被害が予想された台風18号の接近に対応して、10月6日(火)には飛びやすい園内の臨時看板・幟等の撤去を受託業者に要請し、10月7日(水)には機構としての対応措置・方針を決定し、職員4名の泊り込み体制をとった。
台風が近畿に最接近した後の8日(木)早朝からは台風の被害把握に努め、倒木や飛散した枝葉の除去・清掃のため、自然文化園・日本庭園を臨時休園した。

平成22年3月31日現在
(敬称略)

日本万国博覧会記念基金事業審査会委員

任期：平成21年12月15日から平成23年3月31日

役職名	氏名	所属
委員長	宮原 秀夫	独立行政法人情報通信研究機構 理事長 財団法人地球環境センター 理事長
委員	上田 みどり	広島経済大学 教授
委員	田邊 隆一	外務省特命全権大使（関西担当）
委員	浜 矩子	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授
委員	堀井 良殷	財団法人大阪21世紀協会 理事長
委員	矢内原 千鶴子	大阪薬科大学 理事長

審査会専門部会 委員

任期：平成21年12月15日から平成23年3月31日

部会名	役職名	氏名	所属
環境第1部会	部会長	谷口 研二	大阪大学大学院工学研究科教授 (先端科学イノベーションセンター長)
	委員	杉原 充志	羽衣国際大学産業社会学部キャリアデザイン学科教授
	委員	夏原 由博	京都大学大学院地球環境学学術教授
	委員	花嶋 温子	大阪産業大学人間環境学部講師
	委員	弘本 由香里	大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所客員研究員
環境第2部会	部会長	山近 洋	株式会社住化技術情報センター副社長
	委員	苧阪 満里子	大阪大学大学院人間科学研究科教授
	委員	河内 厚郎	『関西文学』代表 夙川学院短期大学教授
	委員	中村 佳正	京都大学大学院情報学研究科教授
	委員	藤本 豊士	名古屋大学医学部・大学院医学研究科教授
文化活動部会 国際相互理解・	部会長	木津川 計	雑誌『上方芸能』発行人 和歌山大学観光学部客員教授
	委員	勝岡 洋治	大阪医科大学泌尿器科教授
	委員	窪田 好男	京都府立大学公共政策学部准教授
	委員	佐藤 友美子	(財)サントリー文化財団上席研究フェロー
	委員	高橋 憲明	大阪市立科学館館長

予算、収支計画及び資金計画の計画に対する実績

(1) 予算の状況

第1号勘定（公園事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3カ年	21年度	実績額	対A
収入				
業務収入	6,997	2,469	2,481	101%
その他の収入	3,307	1,250	1,191	95%
計	10,304	3,718	3,673	99%
支出				
管理運営費	7,188	2,474	2,368	96%
人件費	1,601	557	531	95%
管理諸費	5,587	1,917	1,837	96%
公園整備費	2,804	1,038	947	91%
その他の支出	—	—	—	—
計	9,992	3,512	3,315	94%

第2号勘定（基金事業）

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3カ年	21年度	実績額	対A
収入				
業務収入	948	322	320	99%
その他の収入	1	0	0	39%
計	949	322	320	99%
支出				
管理運営費	190	62	43	69%
人件費	159	53	37	70%
管理諸費	31	9	5	62%
基金事業費	593	194	161	83%
その他の支出	166	67	78	118%
計	949	322	281	87%

第1号勘定と第2号勘定の合計

（単位：百万円）

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3カ年	21年度	実績額	対A
収入				
業務収入	7,945	2,790	2,801	100%
その他の収入	3,307	1,250	1,192	95%
計	11,253	4,040	3,993	99%
支出				
管理運営費	7,378	2,536	2,411	95%
人件費	1,760	610	568	93%
管理諸費	5,618	1,925	1,842	96%
公園整備費	2,804	1,038	947	91%
基金事業費	593	194	161	83%
その他の支出	166	67	78	118%
計	10,941	3,834	3,597	94%

（注）各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(2) 収支の状況

第1号勘定

(単位:百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
収益の部				
經常収益	8,871	3,153	3,277	104%
公園事業収入等	7,491	2,663	2,740	103%
財務収益	1,053	371	376	101%
その他の収入	327	119	161	135%
臨時収益	—	—	8	皆増
計	8,871	3,153	3,285	104%
費用の部				
經常費用	8,703	3,116	3,081	99%
公園事業費等	8,692	3,113	3,079	99%
その他の費用	11	3	3	88%
臨時損失	—	—	10	皆増
計	8,703	3,116	3,091	99%
純利益	169	37	194	522%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	169	37	194	522%

第2号勘定

(単位:百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
収益の部				
經常収益	948	322	325	101%
基金運用収入	948	322	325	101%
臨時収益	—	—	—	—
計	948	322	325	101%
費用の部				
經常費用	948	322	274	85%
基金事業費等	833	272	224	82%
その他の費用	115	50	50	100%
臨時損失	—	—	—	—
計	948	322	274	85%
純利益	—	—	51	皆増
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	—	—	51	皆増

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位:百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
収益の部				
経常収益	9,820	3,475	3,602	104%
公園事業収入等	7,491	2,663	2,740	103%
基金運用収入	948	322	325	101%
財務収益	1,053	371	376	101%
その他の収入	327	119	161	135%
臨時収益	—	—	8	皆増
計	9,820	3,475	3,610	104%
費用の部				
経常費用	9,651	3,438	3,355	98%
公園事業費等	8,692	3,113	3,079	99%
基金事業費等	833	272	224	82%
その他の費用	126	53	53	99%
臨時損失	—	—	10	皆増
計	9,651	3,438	3,365	98%
純利益	169	37	245	660%
目的積立金取崩額	—	—	—	—
総利益	169	37	245	660%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

(3) 資金の状況

第1号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
資金収入	17,047	5,844	5,904	101%
業務活動による収入	8,697	3,066	3,112	102%
業務収入	8,582	3,016	3,022	100%
その他の収入	115	50	90	180%
投資活動による収入	7,350	2,200	2,200	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,000	578	592	102%
資金支出	17,047	5,844	5,904	101%
業務活動による支出	7,656	2,670	2,587	97%
人件費支出	1,553	549	588	107%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	5,752	2,121	1,999	94%
投資活動による支出	8,814	2,927	2,922	100%
財務活動による支出	17	4	4	100%
次期への繰越金	559	242	390	161%

第2号勘定

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
資金収入	6,530	2,248	2,273	101%
業務活動による収入	949	322	329	102%
業務収入	949	322	329	102%
その他の収入	—	—	—	—
投資活動による収入	5,503	1,800	1,800	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	78	126	144	114%
資金支出	6,530	2,248	2,273	101%
業務活動による支出	975	320	248	78%
人件費支出	229	66	66	101%
その他の業務支出	747	255	182	72%
投資活動による支出	5,503	1,800	2,002	111%
財務活動による支出	—	—	—	—
次期への繰越金	52	128	23	18%

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

	中期計画	年度計画A	4月～3月までの実績	
	3ヵ年	21年度	実績額	対A
資金収入	23,577	8,092	8,176	101%
業務活動による収入	9,646	3,388	3,440	102%
業務収入	9,531	3,338	3,350	100%
その他の収入	115	50	90	180%
投資活動による収入	12,853	4,000	4,000	100%
財務活動による収入	—	—	—	—
前期よりの繰越金	1,078	704	736	105%
資金支出	23,577	8,092	8,176	101%
業務活動による支出	8,632	2,990	2,836	95%
人件費支出	1,782	615	654	106%
国庫等納付金の支払額	351	—	—	—
その他の業務支出	6,499	2,375	2,181	92%
投資活動による支出	14,317	4,727	4,924	104%
財務活動による支出	17	4	4	100%
次期への繰越金	611	370	412	111%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

予算、収支計画及び資金計画に関する実績（決算額）の経年比較表

(1) 予算

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収入	業務収入	2,832	2,812	2,649	2,801	-	支出	管理運営費	2,550	2,566	2,454	2,411	-
	その他の収入	1,534	894	905	1,192	-		人件費	578	599	582	568	-
								管理諸費	1,973	1,967	1,872	1,842	-
								公園整備費	1,229	529	684	947	-
								基金事業費	210	205	219	161	-
								その他の支出	31	31	30	78	-
	計	4,366	3,706	3,554	3,993	-		計	4,020	3,331	3,388	3,597	-

(2) 収支計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収益の部	経常収益	3,588	3,552	3,297	3,602	-	費用の部	経常費用	3,335	3,401	3,164	3,355	-
	公園事業収入等	2,695	2,674	2,490	2,740	-		公園事業費等	3,050	3,091	2,878	3,079	-
	基金運用収入	331	329	331	325	-		基金事業費等	267	273	269	224	-
	財務収益	436	432	390	376	-		その他の費用	19	37	18	53	-
	その他の収入	126	118	86	161	-							
	臨時収益	-	-	-	8	-		臨時損失	-	0	36	10	-
	計	3,588	3,552	3,297	3,610	-		計	3,335	3,401	3,201	3,365	-
						純利益	252	150	96	245	-		
						目的積立金取崩額	55	-	-	-	-		
						総利益	307	150	96	245	-		

(3) 資金計画

第1号勘定と第2号勘定の合計

(単位：百万円)

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
資金収入	業務活動による収入	3,657	3,837	3,324	3,440	-	資金支出	業務活動による支出	3,042	3,075	3,344	2,836	-
	業務収入	3,533	3,680	3,198	3,350	-		人件費支出	672	664	663	654	-
	その他の収入	124	157	126	90	-		その他の業務支出	2,370	2,410	2,275	2,181	-
	投資活動による収入	3,046	3,782	3,053	4,000	-		国庫等納付金の支払額	-	-	406	-	-
	財務活動による収入	-	-	-	-	-		投資活動による支出	4,525	3,851	3,714	4,924	-
								財務活動による支出	-	-	7	4	-
	前期からの繰越金	1,595	731	1,425	736	-		次期への繰越金	731	1,425	736	412	-
	計	8,298	8,350	7,802	8,176	-		計	8,298	8,350	7,802	8,176	-

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

貸借対照表及び利益の処分に関する書類の経年比較表

(1) 貸借対照表

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
資 産 の 部	流動資産	4,684	4,718	5,085	6,995	-	流動負債	901	774	589	785	-
	固定資産	144,386	144,094	142,992	142,113	-	固定負債	6,719	6,437	6,197	6,787	-
							負債合計	7,620	7,211	6,786	7,571	-
							資本金	121,978	121,978	121,978	121,978	-
							基金	18,586	18,586	18,812	18,812	-
							利益剰余金	887	1,038	502	747	-
							公園整備積立金	-	-	-	-	-
							助成事業積立金	-	-	-	-	-
							積立金	580	887	406	502	-
							当期末処分利益	307	150	96	245	-
							資本合計	141,451	141,602	141,291	141,537	-
資産計	149,071	148,812	148,078	149,108	-	負債・資本合計	149,071	148,812	148,078	149,108	-	

(2) 利益の処分に関する書類

(法人単位)

(単位：百万円)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
当期末処分利益	307	150	96	245	-
当期総利益	307	150	96	245	-
利益処分数額	307	150	96	245	-
積立金	307	150	96	245	-
独立行政法人通則法第44条第3項 により主務大臣の承認を受けた額					
公園整備積立金	-	-	-	-	-
助成事業積立金	-	-	-	-	-

21年度は、未承認

(注) 各欄積算と合計欄の数字については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

公園整備等に関する計画の執行実績

(単位：百万円)

区 域	中期計画 平成20～22 年度 (a)	年度計画 平成21年度 (b)	実績額 平成21年度 (c)	年度計画 達成率 (c)/(b)	中期計画 達成率 (c)/(a)
日本庭園	245	90	44	48.3%	17.8%
自然文化園	2,264	665	693	104.2%	30.6%
スポーツ施設地区	247	151	101	67.2%	41.0%
管理サービス地区	48	132	110	83.2%	228.9%
合計	2,804	1,038	947	91.3%	33.8%

(注) 各欄積算と合計欄の数字及び対比率については、四捨五入の関係で一致しないことがある。

平成 21 年度主要工事一覧

(区域別 1 千万円以上 単位：百万円)

区 域	工 事 名	金 額
日本庭園	日本庭園心字池浚渫工事	20
	その他 (小規模工事、設計・監理委託費等)	24
	小 計	44
自然文化園	万国橋耐震補強工事	312
	鉄鋼館展示内装改修工事	89
	鉄鋼館改修工事	74
	下水道分流化整備工事	69
	自然文化園 2・3 工区受変電設備改修工事	64
	その他 (小規模工事、設計・監理委託費等)	85
	小 計	693
スポーツ施設地区	万博記念競技場メインスタンド便所改修工事	25
	サブグラウンド 4 種公認改修工事	20
	野球場内外野トイレ及び南地区周辺トイレ等改修工事	13
	その他 (小規模工事、設計・監理委託費等)	43
	小 計	101
管理地区	中央駐車場機械式ゲート設置工事	30
	エキスポランド跡地北西区域電気設備改修工事	27
	エキスポランド跡地レストラン内装等改修工事	18
	その他小規模工事、設計・監理委託費等	34
	小 計	109
	合 計	947

※ 区域区分の関係で、主要工事一覧の金額は、契約金額と合致しない場合がある。

財源別の執行金額は、次のとおりである。

第二号勘定からの繰り入れ	50百万円	自然文化園等土壌改良工事他
長期預り金資産整備事業費	519百万円	鉄鋼館改修工事他